

関山

かんざん

第17号

関山

中尊寺〈寺報〉第十七号

平成二十三年(二〇一一)十二月



寺報 中尊寺

寺報 グラビア		本尊 丈六釈迦尊像の造立	50
大震災と「世界文化遺産」登録	貫首 山田 俊和	本堂新御本尊造立にあたって	52
復興祈願	破石 澄元	仏師 坪田 最有 開き手 菅野 澄円	
世界遺産としての第一歩	佐々木 五大	本尊造立結縁浄財	56
第三十五回		風信・語録 三度の快拳	72
世界遺産委員会における決議の概要		まち・ひと 菜種油を奉納	73
鎮魂・復興〈復光〉	菅野 宏紹	新刊紹介	78
食事支援で生命と気持ちをつなぐ	山崎 純	関山句囊・歌籠	79
「大根コン」プロジェクト	吉野 崇	陸奥教区宗務所報	87
三陸郷土芸能奉演	菅野 澄円	〔福聚教会・中尊寺支部便り〕	92
ポランテシア活動報告	破石 晋照	御神事能番組	93
風信・語録 震災地から届いた「詠草」二首		御奉納者御芳名	94
「復興 信じています」	ドナルド・キーン先生 卓話	浄財御奉納者御芳名	94
		浄財募金	95
		不動尊篤信御奉納者御芳名	
		東日本大震災御支援者 御芳名	
		執務日誌抄	100
		〔表紙〕	
		三陸郷土芸能 震災追悼奉演 於中尊寺本堂前	
		大船渡市門中組虎舞 (十月十六日)	
一陽来復	佐々木 邦世		
	46		
	40		
	38		
	36		
	35		
	28		
	26		
	23		
	20		
	18		
	16		
	13		
	9		
	6		



「平泉」世界文化遺産登録／慶讃
「東日本大震災」復興祈願
一字金輪佛頂尊

秘佛 御開帳

平成24年7月17日～11月11日

*仏名の「一字」は、本尊の仏格を象徴する種子しゆじと真言が糸(ボロン) 一字で表象されること、「金輪」とは、諸仏の徳を一身にあつめた最高の、「仏頂尊」の意であります。

*この御尊像は、三代・秀衡公の念持仏と伝えられ、日輪を背に豊麗にして清楚な面持ちで端坐され、天蓋には八供養菩薩が飛翔ひしょうして、まさに「形服ぎようふくは素月の如し」と経典に説かれるごとく、古くから俗に「人肌の大日」と親しまれてきた麗容です。

*前回平成12年(2000)の「開山千百五十年大祭」以来、12年ぶりの御開帳になります。「瞻仰尊顔せんじゆんそんげん」、もう一度お会いしたいと御開帳のご縁を待たれる声も多く聞かれました。また、ご参拝いただいた折に、できるだけゆつくりとお参りしていただけるようにと、時期についても思案しまして、今後は本年を起点に五年ごとこの御開帳を基調にすることと致しました。(次の御開帳は平成28年の予定です)

東北の大地に復興と日々の安寧を祈念し、ご挨拶と致します。

平成23年11月

中尊寺



東日本大震災犠牲者追悼回向法要 (3/19 金色堂)

3/11 東日本大震災
慰霊と復興の取り組み



平泉大文字送り火 (東稲山)

津波被災地のがれきを焚き上げ、犠牲者の冥福が祈られた。

6/26 世界文化遺産
「平泉」登録決定



無量光院跡より金鷄山を望んで奉告法要 (7/3)



天台座主 半田孝淳猊下御親修 (7/20 気仙沼市観音寺)



町民報告会 (7/3 平泉駅前)



物故者の初盆回向に出向
(8/13 陸前高田市内)



震災四十九日忌回向に出向
(4/28 陸前高田市内)



宮古市「黒森神楽」奉演 (7/3)



世界遺産登録記念・東北復興祈願
金色堂参拝 (7/3)



天台宗ニューヨーク別院にて5周年記念法要（平成22年10月23日）
 （本文40ページ参照）



ウィーン・フィル管弦楽団メンバーによるチャリティーコンサート（7/20 本堂）



中尊寺一山子弟得度式
 （平成22年10月30日）

得度式は、僧侶にとって大切な儀式の一つであり、仏道を志す者が最初にくぐる門。平成22年の秋、尊い発心のもと、中尊寺では、一山地蔵院の圓了さん、円教院の慧遵さんの2名が、海の向こうのニューヨーク別院では、間真住職のもとで天台仏教を修学してきた男女6名が天台宗の僧侶となった。



一関・千葉さん三兄弟、書道展入選
 （本文72ページ参照）



「風の盆講中」による越中おわら節奉演（7/31）



三陸郷土芸能追悼奉演（10/1～11/6）
 （本文26ページ参照）

大震災と「世界文化遺産」登録

貫首 山田俊和

歴史に刻まれる大津波と原発事故、平泉の文化遺産の「世界文化遺産」登録。平成二十三年は一人ひとりの記憶にとどめられました。

三月十一日、三陸沖に大地震が起こり、東北・関東の太平洋沿岸は大津波で破壊され、福島原発も被災して放射能汚染が広がるという未曾有の大災害に遭遇いたしました。雪が降る寒い時で死者行方不明者は二万人を超え、避難者は二十五万人ともいわれています。

平泉は震度六弱の揺れで、一部に壁の崩落等が有りましたが、金色堂や文化財に被害は無く幸いでした。中尊寺では大震災発生以来、救済物資を届けることやボランティア活動を行い、物故者慰霊法要を日々行つて参りました。被災者の方々は互いに思いやり協力し合つて不自由な避難生活を乗り越え、一日も早い復興を願われて居ります。私達は物故者の菩提を弔うと共に、被災者の皆様によりお見舞い申し上げますと共に、復興を支援致す覚悟です。

歴史上、自然災害の無い年などあり得ません。自然は生命を育むと同時に、その破壊力は時として全てを奪いさります。古来より人は自然を崇め、その力を謙虚に受け止めて参りました。自然は私達

の思いのままにはなりません。自然災害に対応する考え方を改め方策を講じる必要があります。

さて、六月二十六日、被災地でもある平泉の文化遺産が「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」として世界文化遺産に登録されました。準備を始めて十年余り、関係者、住民の方々の努力が実を結び誠に喜ばしく、被災地の希望のともしびとなることを願つております。

平泉の文化遺産の原点は天治三年（一一二六）に藤原清衡公が中尊寺を創建したことにあります。そして二代基衡公によつて毛越寺、三代秀衡公によつて無量光院が建立されました。時の流れの中で金色堂を除く全ての堂塔が災害によつて失われましたが、その遺跡は大切に守り伝えられ世界遺産の評価を受けたのです。

平泉の文化遺産の心は、清衡公の「中尊寺建立供養願文」に述べられています。そこには仏教精神を根本に、全ての人々の苦しみを取り除いて楽しみを与え、さまよっているであろう敵味方全ての靈魂を浄利に導きたいと書かれています。清衡公は仏教による文化国家、武力にたよらない平和国家、全ての人々を救済する福祉国家、即ち仏国土（浄土）の建設に邁進されたのです。このことが平和都市平泉建設の根本で、私達が継承しなければならないところです。

平泉の文化遺産は世界文化遺産になり、世界の人々の宝物になりました。平泉は仏国土（浄土）です。自然と共に、互いに尊重し合い、ゆるし合い、協力し合つて生きる聖地でありたいと念願しております。混迷を深める今日の世界、大震災被災地に暮らす方々に安心を得ていただける、仏に守られた平泉でありたいと思っております。



復興祈願

破 石 澄 元

四月になって、いくらか暖かくなってきたある日。風はまだ冷たさをはらんでいたが、お日さまは陸と海とにやわらかい日差しを投げかけていた。海を見渡す高台で、初老の男の人が呟くように話してくれた。「大きな津波は二度目だが、五十年前の津波よりもはるかに高いところまで波が来た。上から見てもそれは恐怖だった。眼下の家や工場などの建物が、波に次々と埋もれてしまい、広くなった水面には建物の残骸やら、所狭しと浮き上がり、流されていた。近頃津波情報が出て、せいぜい数十センチのものだったので、油断があったかも知れない。津波の怖さを知っている人も少なくなってきたこともある。」十分に聞き取れないところもあったが、聞き直して確認できるように雰囲気ではなかった。後は押し黙ったまま、海に向けてしつらえた香炉に線香をたて、長く合掌したままであった。

平成三年三月十一日午後、東日本大震災に襲われた。最初は被害の甚大なことをつかみきれなかった。停電になって十分に情報を得ることができなかった。強い余震が続き、情けないことに心のそこに恐怖感を覚えていた。まさしく計り知れない自然の驚異に、深く暗い無力感、苦しみと悲しみをともなった虚脱感のようなものを感じながら、悶々としていた。電気が復旧し、徐々に被害の深刻さがわかってくる、私の苦悩はさらに深まった。立ち上がるという叱声は鳴り響いていた。頭の中では「何をしているんだ」という叱声が鳴り響いていた。私は苦しみの中で数日を送った。

テレビやラジオからは全国、あるいは世界中から被災者に寄り添った温かい励ましの言葉が届けられていた。また、被災者の方からは、大変な惨状の中にもかかわらず、誠に素直な感謝の言葉が返され、さらに他の被災者を思いやる気持ちに満ちあふれていた。大変な災禍に見舞われ、極限の状況の中で、心の奥底からあのように優しく美しい言葉が出てきた。

私は犠牲になられた方に、せめて線香を手向け冥福を祈

りたいと思ひ、被災地の安置所をまわることにした。一週間ほどして私は車で冷たい雨の中、瓦礫の中を縫うようにして被災地を走っていた。道路はようやく車が通れるほどに瓦礫が押しつけられていたが、窓の外は瓦礫の壁で、充分な幅も確保できていなかったもので、いかにもよろよろと走っていた。初めて生で見る被災地は悲惨なものであった。鉄道の線路が、鉄橋がなくなっていた。海に向かってあった大きな町並みが、みな瓦礫の山になっている。そのようなところを走っていくつかの御遺体安置所にたどり着いた。入り口で警察の方に「線香を上げさせてください」と言うと、「お願いします」と言われて中に入った。ある安置所では私の読経に合わせて警察官の方々が、後ろに整列して合掌してくれた。しかし、安置所で目にしたものは、決して無言ではなかった。犠牲になられた方々は、もちろん自らの「死」を受け入れられないだろう。「何でだ!」「なぜなんだ!」というような叫び声が頭の中に響いて来るようだった。その人たちにとって命を落とすべき理由は何もなく、無念のきわみだつたに違いない。数ヶ所の安置所をめぐり帰路について、自分にできること、やらなければなら

らないことは何だろうと考えた。そして家に戻って一夜を過ごす、故なく災渦に巻き込まれた霊の叫びが聞こえてくるような気がして、せめてお香を手向けなければと日をおかずに安置所にお参りすることになった。四月になって新学期の準備ということもあつたのか、それまでまわっていた小中学校の安置所が、あわただしくなってきた。そんなとき太平洋の見える、とある高台に行き当たり、そこに香炉を置くこととした。そこから見える太平洋の大海原は、私が行く時はいつも美しく穏やかで、何故あのよう^あに恐ろしい鬼の姿になって、平和な町を罪も無い人々を阿鼻^{あび}の地獄に引きずり込んだのか、まったく信じられない。最初は小さな台に香炉を置き、花立て一对を準備しただけのものであつたが、地域の人たちも花を供えていただくようになり、二対にした。過日またそこにいつてみると、三対になつていった。地域の人、主に志田さんご夫妻にお世話になつてゐる。いつも周辺の草を刈つていただいたり、花の水を取り替えてくれたり、台の上をきれいにしていただいてゐる。私は近所の店で適当に花を準備していくのだが、志田さんは庭で丹精した、それは見事な花をお供えし



ていた。さらに周りには数本の「向日葵」の苗を植えていただいた。

八月になつて中尊寺ハスを切り花にして持つていった。今年最初の中尊寺ハスが咲いたときに、この花を犠牲になられた霊前にぜひお供えしたいと思つていたのである。翌日きれいに咲くはずのものであつたので、翌朝五時ころ私は花の様子を見にふたたび現地に行った。やはりその時も志田さんはそこに来ていた。しかし普通なら開花しているはずの花が、水あげを誤つたためか咲いていない。私はそこを六時ころに出発して戻らなければならなかつたので、志田さんに挨拶してそこを去つた。志田さんは根気よくハスの開花を待つていたようで、わずかに花びらが開いたハスを写真におさめ後日それを頂戴した。志田さんには再々お茶に呼ばれていたが、八月初旬におまわりに行った後、お宅にお邪魔した。そこは大変きれいな庭だった。天気もよかつたので庭でご馳走になることとなつた。志田さんは十人ほど同級生の人たちを呼んでいた。みな被災している。それぞれに被災状況を話されるのだが、右からも左からもいろいろな話が出て、すべてを聞き取ることはでき

なかった。お茶のつもりでお邪魔したのだが、集まった人たちが皆さん手料理を持ち寄っていらして、おふかしやら、餅やら、煮物などたくさんのお料理が出て、豪華な昼食会になっていた。

被災地をめぐり、いろいろな人に出会った。石巻では、子供たちが多く犠牲になった大川小学校の近辺に行き手を合わせた。生き延びた女の子が「永く友だちのことを思い続けていきたい」というようなことを話していたのをテレビで見た。避難所では仕切りにした段ボールから顔だけ出してている人たちもいた。話をすると意外に明るく力強い口調で元気に語ってくれ、こちらが戸惑うほどであった。迫り来る波に追われながら、何とか逃げ切つて助かった人。夫婦で避難場所まで逃げたが、奥さんがもう一荷物と言って家に戻ったまま波に飲まれた話。消防団の方が防災センターにいて、そこに向かつてきた同僚がやはり目の前で流された話。漁業をしていたが、家も船も流されて手も足も出ないと笑っていた人。避難所に逃げ込みながら、そこで命を落とした孫の話。中古車を手に入れて大喜びしていた女性もいた。明るく話してくれるのだが私には充分理解し

世界遺産としての第一歩

佐々木 五大

二〇〇八年七月、世界遺産委員会が登録延期を決定したときの様子が、今でもはつきりと思い出せます。僧侶が広間に集合して、現状報告なり、言葉を待っているところで、重苦しい雰囲気の中、故千田孝信前貫首から頂いた励ましのメッセージが伝えられました。「気を落とさず、諦めずに次の取り組みを」

ご拝観の方々は口々に「なにが駄目だったんでしょ」とお訊ねになります。もちろん私たち僧侶にも。多くの場合はイコモス・ユネスコによる延期理由を敷衍して説明し、ご納得いただきます。しかしもつと根源的な理由については、なかなか言及できない状況にありました。

平泉の何をもって世界遺産とするのか。その価値の所在や定義に関する議論が、構成資産の担い手である私たちのいない場でなされたこと。登録申請の初期において、その当事者であり主体が、文化庁など行政側だったこと。それ

きれない深い苦しみ悲しみがそこにはあり、切ない思いにさせられる。被災者の方々の苦しみや悲しみ、痛みというようなものは計り知れない。犠牲になられた方々の無念さもその極みであることに違いない。彼らは、あの異形となつて咆哮し、鬼と化した海の姿を、忘れることはできないだろう。私には十分に理解しきれないものであろうが、陰ながら、そして微力ながら犠牲者を悼み、被災者の支援を続けていきたい。

海面がもくもくと盛り上がってきた。いや、波が大きく巻き上げながら繰り返して来た。津波の形も、地形・場所によつて表情が違ったのだろう。徐々にはあるが瓦礫も片付いているようで、今度来るときはどうなっているのだろう。年内にはかなりきれいになるだろうと期待している。高台には家を建てているところもいくつか見られ、土地の造成も進められている。きっと前より美しい海辺の町ができるに違いない。

(二山金剛院 住職)

によつてその場で「浄土思想」というキーワードが標榜されてしまったことこそが、先に述べた根源的問題といえます。

信仰の中に理解がある

浄土思想についての理解・説明の不備が、〇八年の延期勧告につながった一因であることは、新聞等でもよく指摘されています。それに付随した出来事として、イコモス調査員の視察時にまつわるエピソードがあります。一行の先頭に立つて、担当の行政の方が、寺に収蔵されている文化財を説明していると、イコモス調査員は、「あなたはその經典を読んだことがありますか」「あなたはその佛を礼拝していますか」と聞き返したのです。

佛教では信・解・行の三つを軸として佛と向き合い、これらは不可分なものとされています。すなわち信(帰依)・行(実践)を伴わずにその価値を解(理解)し論じるというのは本来できないことで、これは世界の宗教に共通する部分でしょう。調査員の質問はまさにその信・行の欠落を看破したものでした。当山の山田貫首も法話の折に、

しばしば現代人の「解」への偏重を諷められておられます。今はよろずのことにおいても理屈が先にきている、理論的妥当性ばかり追い求められている、と。

信じることから始めなければならない、とは言語哲学の泰斗ウィトゲンシュタインの言葉ですが、今後に登録申請を控えた国内の神社においては、この宗教の通念に従って、世界遺産としての価値の証明がなされるべきでしょう。

これからも守ってゆくべきもの

〇八年の延期を受けて、国と県は「仏国土（浄土）」を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」と名称を変更しました。それに伴って浄土思想に関係がうすいと見なされた構成資産は除外された形になりましたが、その価値が低く認識されてしまいかねないことも問題です。柳之御所跡をはじめとした遺跡・遺構群は歴史研究の上で重要な存在ですが、構成資産はずれたことで、訪れる人の関心を引くことは難しくなりました。しかしその重要性が蔑ろにされるようなことがあつてはなりません。

平泉の価値は多義的なものです。世界遺産としては「仏オロギツシュな色彩を帯びさせてしまったのではないかと心配もしております。

思想というのは体系上に分類された単位にすぎないものです。はじめに清衡公の信念があり、信仰があつた。そのことを大切にしていきたいものです。

人それぞれに「平泉」がある

登録延期がきまつてから今年にいたるまでの間、登録自体を再考してはどうか、という意見もありました。しかもそれらは、事が頓挫した時にありがちな、安易な「そもそも論」ではなく、平泉の本質が損なわれてしまうことを危惧した、真摯な姿勢から発せられたものでした。また「平泉らしさ」は町民個別のもので一様でなく、それらがイコモスやユネスコが求める表現に変換されていく過程に、違和感を覚えた町民も少なくなかったと思います。

日本文化研究の第一人者で、先ごろ日本への永住を決意されたドナルド・キーン氏によれば、平泉の特筆すべきところは、「一度も死んでいない」部分にあるそうです。辺境にありながら日本人から忘れられた時期のない存在、常

国土を体現したか」という物差しでのみ評価されましたが、学術的価値・風土保全の上で重要な地域をしっかりと保護していくのも今後の課題です。

思想の枠にとらわれないで

平泉の普遍的な価値を世界遺産へ——。という標語はありましたが、私たちの中にある平泉の価値が認められた、というよりも、世界が認める価値として、平泉が再定義されたような感覚もありました。もともと平泉町民の「平泉観」に浄土思想という用語が散見されたわけではありませんでした。これからの平泉を表現するキーワードとして、町民の方々は、浄土思想についてよく知っておこうと、説明会や講演にも熱心に足を運ばれました。

供養願文にみられる清衡公の精神は、これまでは単に非戦・平和への願いとして捉えられてきたように思います。悪く言えばやや漠然とした善意として認知されていたことが、しばしば「現代にも通じるものがある」と表現させるような柔軟性・普遍性を持たせている側面がありました。浄土思想という限定的表現が、清衡公の精神に少しくイデ

に日本人に影響を与え続けた存在として、世界に比して例外的であると。

登録にいたるプロセスを振り返っても、構成資産や定義の全てを諒とすることはできないでしょう。私がそれでも今回の登録を喜んでいるのは、平泉の価値や定義は、寺が独占して語るべきものでもないと思うからです。町民もまたしかり。より広い範囲に及ぼしてきた影響に対して、世界から認知されたのだと考えるからです。

これから私たちが、平泉のすばらしさについて説明を求められたとき、登録申請のような「価値の証明」に終始した話ではいけないでしょう。自由の女神像の世界遺産たる所以を説明する、アメリカ人にもなった心もちで、自分のなかにある言葉で話さなければ。そしてその言葉がまだ力不足なら、もっと勉強すべきだということです。

第三十五回

世界遺産委員会における決議の概要

(1) 記載の可否と記載基準への適合

○「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」については、評価基準（ii）及び（vi）に基づき、構成資産である柳之御所遺跡を除外して、世界遺産一覧表に記載する。

登録基準 評価の内容

ii 平泉の寺院と浄土庭園は、日本独特の自然信仰である神道に基づき進化を遂げた仏教とともに、アジアから作庭の概念がどのようにもたらされ、結果的にそれが日本に独特の計画、庭園の意匠設計の概念へとどのように発展を遂げたのかを顕著に明示している。平泉の建築・庭園は、その他の都市の建築・庭園にも

影響を与え、特に鎌倉には中尊寺に基づく仏堂のひとつが存在する。

vi

平泉の浄土庭園は、東南アジアへの仏教の普及、日本に固有の自然信仰の精神及び阿弥陀如来の極楽浄土思想と仏教との特有で固有の融合を明確に反映している。平泉の建築・庭園の複合体から成る遺跡群は、現世における仏国土（浄土）を象徴的に明示している。

(2) 委員国による修正意見

○三年という短い期間にイコモス及び世界遺産委員会の勧告を尊重して、非常に優れた再推薦を行ったことを称賛する。

(3) 我が国への要請事項

○勧告事項

(a) 金鶏山と他の四つの建築・庭園との間の眺望について、障害のない状態を維持すること。
(b) 主要な道路改修の提案に当たっては、個々の構

成資産の周辺環境の見え方を含め、顕著な普遍的价值の属性に対する影響を計る「遺産影響評価（Heritage Impact Assessment）」を行うこと。

(c) 中尊寺及び無量光院跡の二つの地下に埋蔵されている庭園の再発掘調査及び再生（修復）に当たっては、『世界遺産条約履行のための作業指針』第一七二項に基づき、イコモスによる評価を受けるために、世界遺産センターに計画書を提出すること。

(d) 地下に埋蔵されている考古学的な情報資源を積極的に保護すること。

(e) 種々の構成資産の受容力に関する詳細な研究に基づき、来訪者に関する管理戦略を適切に定め、実施すること。



第35回 世界遺産委員会（H23.6.19～29 パリ）

鎮魂・復興〈復光〉

釜石市鵜住居十一面観音像

五百年特別御開帳護摩供養のこと

菅野宏紹

震災から半年を経過したとは言え、まだ深い傷跡がのこる釜石鵜住居地区。

去る九月十八日、「東日本大震災大津波犠牲者慰霊・三陸復光祈願護摩供養」が行われ、住民の方約二百名が参列した。

法要会場の観音堂跡地も瓦礫が残り、山林も津波を被つたため樹木が赤茶色に変色するなど震災の爪痕が多く見受けられた。

台風の影響で前日まで雨天であったが、当日は晴天に恵まれ、汗を拭きながらの法要となった。中尊寺執事長菅野澄順師の修法される護摩法要に、参列者は観音像に静かに手を合わせ、震災犠牲者の追善、地域復興祈願を祈った。

鵜住居十一面観音像は、像高五十八センチ。お像は、室



町後期の永正七年（一五一〇年）の年号を持ち、三十三年に一度御開帳されてきた。この観音像は胎内仏を納めている点でも珍しい。未指定ながら、岩手県沿岸部特に釜石より南においては記銘のある仏像として最古ということである。江戸期より観音堂別当として小山家（本山派修験・慈眼院）が代々守り伝えてきた。

今回の震災で、昭和六十年代に新築した観音堂をはじめ、江戸期からの多くの仏像、文書類が流失したが、原型を留めて救出されたこの十一面観音像は、別当・小山正氏が万一に備えてブロック造りの頑強な収蔵庫を建てそこに安置していたので微かな被害で済んだ。小山氏は盛岡大学大矢邦宣氏に修復を依頼。修理を終えて今回の準備中に、去る七月逝去され、ご子息の小山勉氏が遺志を継いでこの日の法要となった。

観音堂跡地から見ると、参道上の神社は震災などなかったかのように静かに佇んでいるが、下を見ると、すべて押し流されて何もない光景である。

震災時は高台にあるこの神社に多くの住民が避難し二、三日暖をとったとのことであり、この政所は高齢者等弱者の避難所となったそうである。観音菩薩が身をもって救ったのかもしれない。

法要時間に近付くにつれて参会者が増えてきて、主催者側では急遽パイプ椅子を五、六十脚位増やした。大矢氏の経過報告のあと、別当小山勉氏が挨拶を行い、護摩法要に移った。会場受付に祈願の添え護摩木を主催者側で用意していたが、復興祈願、犠牲者供養それぞれの願意が書かれた護摩木は法要開始の頃には二百本近くになっていた。観音経を読誦される毛越寺から随喜された藤里明久師と遙々天台宗ハワイ別院から参列された荒了寛師の姿が印象的であった。法要後、法楽として地元青年会による虎舞が披露された。震災後練習する時間もなかっただろうが一致結束して素晴らしい舞であった。法被姿の幼児も数人見受けられたが、この子たちも将来、祖父・父が伝え守っているこのような伝統を絶やさず守り伝えていく決意をしているかのような姿であった。

この日は鵜住居の「鎮魂」と、観音像の慈眼による復興の光を願う「復光」を祈る一日となった。

食事支援で

生命と気持ちをつなぐ

山崎 純

私は岩手県の大船渡に生まれ、三陸の手つかずの豊かな自然に囲まれて育ちました。

地元の方々が楽しんでくつろいで頂けるお店をつくりたいと、東京とローマで修業をさせていただき、十三年前に「ふるさと」大船渡で「ポルコロッソ」というイタリア料理屋を開業させて頂きました。「ふるさと」を離れて修行先で気付かされたことは、幼い頃から普段当たり前にいたっていた地元の食材の美味しさ、美しい海、美しい山、美しい川、そこに暮らす方々の温かさでもありました。「ふるさと」を離れて「ふるさと」の素晴らしさを知る修業先での経験でした。

去る三月十一日、ランチの営業を終えると、強い地震がおきました。いつものように、ガスの元栓を閉めて表の扉を開けました。その地震の揺れは今まで経験したことのない強さと長さで、「何か起こるんじゃないか？」という悪い胸さわぎがしました。揺れがおさまった時にはお皿、グラス、調理用具がコナゴナに砕け散り床が見えなくなっていました。結婚したばかりのスタッフの自宅はお店よりも海のそばにあり、家族を心配した彼が自宅へと帰りました。それを心配した私は彼を探しに車を走らせました。その途中、目の前の丘が煙って見えました。「火事？」どこからか「津波だ!!逃げる!!」という叫び声が聞こえてきました。車をUターンさせ、そばの歩道にいた方を乗せて

「津波が来ます!逃げてください!」

「津波が来ます!逃げてください!」

大地震の後、呆然と歩道に立ちすくむ方々に大声で叫びながら高台に避難しました。

海から五キロメートルも離れている僕達の町に



黒い海が流れ込むのを高台から見っていました。何も出来ずに見ていました。

あるだけのお米、買えるだけのお米を買って、震災翌日お店に行きました。「あつたかいごはんを届けよう」それだけでした。お店の中はガチャガチャで電気は止まり、水道もダメでしたが、プロパンガスなのでオーブンは生きていました。水を汲みに行き、ロウソクの灯りの下、一人泣きながらおにぎりを握りました。

その翌日、近所の高校生、おとなりさん方がお手伝いにいらして下さいました。日を追うにつれお店のOBや地元の飲食店仲間、大先輩、友人、知人、友人の友人、日本中から、海外からもボランティアの方々を呼び寄せました。皆さんのご厚意でお食事を届けさせて頂きました。ありがとうございます。

岩手の三月はまだまだ寒さ厳しい冬です。着の

み着のまま暖房もない体育館で肩よせ合い寒さに耐え、自分は食べないのに周りを気づかい食事をゆずり合う方々。おらがまちは海も山も美しいまちです。住んでいる方々の心はそれ以上に美しいです。このまちに生まれたことを誇りに思います。

みなさんの温かいご厚意で多くの方々の生命と気持ちをつなぐことが出来たと思います。震災で失ったものは大きいです。ただみなさんから頂いた温かいお気持ちはそれ以上に大きいです。心より感謝いたします。震災以前より素敵な「まち」にしたいと思います。

ありがとうございます。



プロフィール
やまざき じゅん

大船渡市内でイタリアンレストラン「ポルコロツソ」を経営。震災の翌日から自己資金で食材を買い集め、避難所に食事を届ける。その後地元の人友人らの協力を得て民間団体「さんさんの会」(三陸気仙復興協議会)を立ち上げ、行政の支援が行き届かない大船渡市や陸前高田市の避難所に数千食の「おかず」を届ける。すべての避難所がなくなり被災者の方々の自活が可能になるまで、その活動は続けられている。

写真提供

大人のための北東北エリアマガジンTakra

「大根コン」プロジェクト

吉野 崇

なぜなぜ黒い土から白く育つ♪

もう六年前になるだろうか、有機農法を志した妹の、はじめて育てた野菜が大根だった。

十月に入ってから種を蒔いたので農業を知る先輩方からは、芽が出たからといって土に植えるのはやめておいたほうがいいとさえ言われていた。

十二月に入り、なんとなく気になって畑に大根を見に行った。

もう季節は初冬に入り霜も何度も降りていた。

初冬の澄んだ青空に冷たい風が吹いていた。

空を賑わしていた柿の木の豊かに色づいた葉は大地の模様となり、柿の実だけが三つ、四つ青空に浮いていた。

木々の葉っぱがなくなることで空が広く見える

せいだろうか、この季節はなんとなく自分が小さくなったような気がする。

色とりどりの葉っぱに埋もれつつある小さな大根は緑の葉っぱを空へと伸ばし、凛とした姿で迎えてくれた。

土をまじまじ見ることはなかなかない日常、改めて出会う大根の育つ力に感動した。

頭の中で巡るように、これまでの生命についての学びが浮かんできた。

『そうそう君も僕と同じ生命じゃないか、素晴らしい力があるのだよ。素晴らしい力で守られているのだよ。』そう励まされているような気持ちもした。

運動療法士として体の仕組みを伝え、体を育てる仕事に携わる。

生命の仕組みは本当に素晴らしい。そして、生命を育むこの空間の仕組みも、知れば知るほど素晴らしい完璧なのだろう。変化するものもあれば変化を生み出すものも在る。

運動療法で出会う子供たちの天真爛漫な笑顔や



高田保育園にて

おじいちゃん、おばあちゃんそしてアスリートたちの何かに気づいて思わずほころんだすつきりとした表情との出会いがこの仕事から得る最高の贈り物だと思う。

震災の現状を目の当たりにし、仲間と共に微力を尽くす。

混沌とした状態の中では人は疲れを隠せず、言葉は乱れることもある。

すべてを受け入れる態勢を築いていくことも大きな学びの一つだった。

ただ一つ、命をつなぐという意志が人と人を結び大きな力となる。

雨が川となり、川がタービンを動かし電気を作り、電気が人の智慧を生み出す動力となるように、行動は違えど集まる志が次々と変化し、さまざまな力となって行く姿を目の当たりにした。

衣類、食料、日用品など、物資が山のように集まった。情報を集め、空いている車を手配し運搬する日々が続いた。燃料が尽き始めたときもまた身近

なお寺の若き青年が力を与えてくれた。あの時の思いに燃えた凛とした彼の眼差しとさわやかな笑顔を忘れることはないだろう。お寺の大きな力がどれほどの人たちの心をやさしく包んでくれたことだろう。

「大根コン」を歌ってくれていた子供たちはどうなっているのだろうか。

立ち寄った保育園で現状を知った。震災から三週間たとうとしていたが、おやつすら手配できなくて半日保育すらできない、これでは親たちが動けない。子供たちの心身を守ることも難しいという。一刻も早い一日保育の実現に協力していきたい。

未来を創る子供たちが、夢と、希望を存分に育めるよう、その土壌を耕すこともできる。

この世界には命を生み出す力がある。命には可能性を生み出す力がある。

今後とも心身のケアに携わりながら、できる限り本来の力が出しやすい状態に仲間と共に活動し

ていきたいと思う。

あの大根の姿を思い出すことによって、あの時感じた大事なことをいつもそばに置きたい。

歌うことで思い出し、力が湧けばと歌にした。

歌うことはわたしにとって思いを語ることだと思ふ。

かつて、初代藤原清衡公がその切実な願いを宣べ、行動に移し、町を作り上げた力を見せてくれたように、わたしもまた、このわたしの生きる世界で思いを掲げ表現して行きたいと思う。

プロフィール

よしの たかし

菓子工房吉野屋の菓子職人で健康運動指導士。

二〇一一年「ソングス」でアルバムデビュー。

平泉町在住。

三陸郷土芸能奉演

菅野 澄 円

平成二十三年十月一日から十一月六日まで中尊寺境内に三陸の郷土芸能をお招きして演舞をしていただきました。

あの日、ほとんどの人がテレビに繰り返し映し出される非現実的な光景に、「今、私は何をすべきか？」を考えさせられたはずです。被災地からわずか六十キロメートルの平泉では、二日以上停電が続ぎ、電話・インターネットは寸断し、ガソリンを始め物資が手に入りにくい状況がしばらく続き、被災地への道路は通行止めでした。春彼岸の日になってやっと、車一台にわずかな物資を乗せて陸前高田市へ行くことが出来ました。子供のころの海水浴の思い出の地の変わり果てた光景に、人間の力の小ささ、そして自分の無力さを思い知らされました。

震災から半年、岩手県内では避難所がなくなり、被災者の方々も仮設住宅や新居に住めるようになりました。とはいえ住み慣れた環境にはほど遠い状況です。かつて隣近所

で生活していた隣人が離ればなれに生活再建を始めています。復興には、就職、教育、医療、経済面、そして安心安全な街作りが優先されます。ただし、真の復興にはこれらで地域に根ざしてきた文化風習、お祭りや伝統の復活が必要です。郷土芸能は、代々伝承されるもので、地域と世代をつなぐ重要な文化風習で、震災後の岩手にとって重要な役割を果たすものと思います。中尊寺へ三陸の郷土芸能をお招きし奉演していただくことが少しでもそのお手伝いになればと考えています。

期間を通してご出演の皆様からは「世界遺産おめでとうございます。良かったですね。」という御祝いの言葉を頂戴します。中尊寺で演舞できることを楽しみにそして誇りにしていただけたことは、それだけでも実施したかいがありました。

七月以降、中尊寺参拝のお客様は確かに増えました。それは、新幹線・東北自動車道・花巻空港・仙台空港が次第にその機能を回復していったことを意味します。しかし、実態として東北全体の観光が復活しているわけではありません。北山崎、龍泉洞、浄土ヶ浜、碓石海岸、それぞれに

観光客の受入を再開していますが、人の心理として被災地への物見遊山が遠慮されるのも事実です。平泉は世界文化遺産への登録という追い風もあり、マスコミ等でも取り上げていただく事が多かつたため、今年の東北旅行の目的地となつたに過ぎません。

東北の旅行で中尊寺を選ばれた方々に、三陸の郷土芸能を間近に見ていただき、岩手の元氣・復興の息吹を感じていただきました。さんさ・鹿踊り・鎧剣舞・虎舞と、本当にバラエティーに富んだ活気あふれる演舞でした。復興と共に、いつの日か三陸で演舞される郷土芸能を全国から沢山のお客様が見にいらつしやる日を祈って、御奉演いただいた各保存会の皆様、御協力いただきました各市町村教育委員会、(有)朝日プロダクツ様に感謝申し上げます。

(総務部 次長)

出演団体

十月一日(土) 津軽石さんさ踊り(宮古市)
十月二日(日) 赤沢鎧剣舞(大船渡市)
十月九日(日) 小沢鹿子踊(宮古市)

十月十日(月) 川原鎧剣舞(大船渡市)
十月十六日(日) 門中組虎舞(大船渡市)
十月二十三日(日) 城山虎舞(大槌町)
十月二十九日(土) 槻澤鎧剣舞(陸前高田市)
十月三十日(日) 吉里吉里鹿子踊り(大槌町)
十一月五日(土) 田代念佛剣舞(宮古市)
十一月六日(日) 錦町虎舞(釜石市)



城山虎舞

ボランティア活動報告

破 石 晋 照

救援物資を載せたワゴン車は海岸の町を目指して山道をひたすらに登っていた。まだ雪がちらついていた。

「とにかく行つて見よう。」

若い僧侶で決めたのは三月二十一日、彼岸の昼下がり。ワゴン車に用意できるくらいの物資を積み、陸前高田市に向かった。自衛隊や警察、あるいは報道、また同じように被災地に物資を届けようとする車両に混じり私たちも車を走らせた。何度も通つたことのある道ではあつたが、車の中ではどうしても無口になりがちであつた。

山道を一時間以上走るとそこからは陸前高田市。私たちの町から一番近い海辺の町ということもあつて、子供の頃から家族や友達と海水浴に出かけたり、花火をしたり、たくさんの思い出が詰まっている場所だつた。

山を抜けて市内に向かう。思い出の詰まつた町のいたるところに津波の被害が確認できた。

積んできた荷物を降ろし、今度はこの避難所から物資を積んで数箇所の小さな避難所へ向かう。彼らの話では、この市内に大小様々、沢山の避難所があり、小さな避難所では、食料も満足に届かない状況であるという。電話も不通で、避難所同士連絡も取れない状況のうえ、ガソリンも無いため、他の避難所に物資を届けて欲しいということであつた。その日からしばらく沿岸地域へ救援物資を送り届けた。やがて話が広まると、全国の寺院や町内の方々から心のこもつた物資を提供していただき、被災地の皆さんに届けることができた。

三月も下旬となり、ようやく暖かい日差しが差し込むようになった頃、今度は被災者の皆さんを平泉にお迎えしての入浴支援を始めた。大型バスで二台の日帰り入浴支援。慣れない仕事に最初は戸惑いもあつたが、僧侶も職員も心を込めて皆さんを迎えた。

「落ち着いたら、ワカメでももつてお礼参りにくるからねえ。」

「きつとまたきれいな海岸をつくるから、みんなで遊びに来てねえ。」

「えつ、ここまで。」

まだ海も見えないところなのに道路の側まで津波に飲み込まれた跡になつていた。途方もない現実を眼前に突きつけられ、言葉が出なかつた。恐怖とおどろきと、悲しみが同時に込み上げる。この時ほど複雑な感情を今までに持つたことがあつただろうか。

「大きな避難所へ」

瓦礫の山の中によりやく造られた一本の細い道を通り、高田第一中学校へ向かった。海は、おだやかだつた。

高田第一中学校は、市内の高台にあり津波の被害をまぬがれた大きな公共施設ということもあり、震災直後から近隣避難施設の中心的存在となつていた。数百人規模のこの避難所は、自衛隊や警察、あるいは世界中のメディアが集まつており、物々しい。避難所は地元の若い人が中心にスタッフとなり、役割を決め管理しているらしい。もう何日も満足に休養をもとれず、そして何より彼らもまたこの町で大きな被害を受けた被災者である。それでもなお毅然として働く彼らの目には、途方もない現実立ち向かおうとする確固たる魂がこもつていた。

そんなことを口々に言いながら平泉をあとにする皆さんを見送るとき涙が出た。別れが惜しいわけではない、何故か涙が流れていた。



瓦礫に覆われた高田市街地

四月に入り、直接被災地に向向いてのボランティア活動を始めた。かわるがわるに被災地に向向き、流れ込んだ泥の清掃、瓦礫の撤去、あるいは炊き出しのお手伝いなど微力ながら現地での活動をした。広大な瓦礫の海の中では、文字通りそれは「微力ながら……」ということになるのかもしれないが、少しずつでも復興してくれば、という思いをもつてのボランティア活動だった。

「これで、帰りにおやつでも買ってね……」
あるお宅の庭の瓦礫撤去をした帰り支度の際、家の奥からおばあちゃんが出てきてこう言った。

おばあちゃんは私達の後を一生懸命追いかけてクチャクチャになったお金を差し出した。もちろんそれは受け取れない。丁寧に断るのだがそれでもおばあちゃんは何か御礼をわたそうとする。家の中にある飲み物を、配給された食料品や衣料品をお礼に持つていってくれと言う。最後には逃げるようになっていたかもしれない。おばあちゃんを説得して車を走らせはじめた。

「おい」
後ろからおばあちゃんの声があった。挨拶をしようと車の

きた彼らもまるで自分の町であるかのように心を込めて一生懸命汗を流していた。住んでいる場所が遠くても、被災地のために働こうとする気持ちには何の隔てもない。沢山の暖かい思いが、見渡す限り瓦礫の山だった町に復興の光を灯し始めていた。

三月十一日以来毎月、大震災の物語者追善法要を行っている。そのたびにいつも被災地で出会った人々の顔を思い出す。避難所でもボランティア先でもいつも感謝の言葉を受けた。被災地ができて、そこに困っている人がいる。だから私達は小さな力でも役に立とうとした。軽薄な言葉かもしれないが「当たり前前のことをした」だけなのだから感謝の言葉は必要なかった。避難所に通うたび、子供達が校庭で遊びまわる姿を見て、被災者の皆さんと言葉を交わし、全国から応援に駆けつけたボランティア活動の仲間たちと一緒に汗を流す。そのうちに私たちも被災地に溶け込み、大災害から一緒に立ち直るかけがえのない仲間になったよいうな気がした。それだけで嬉しかった。

「未曾有」と形容される大震災が起こり被災地には途方

窓を開けて振り向くと、おばあちゃんは私達より先に頭を下げてこう言った。

「ありがとうございました。」

おばあちゃんは私達をずっと見送っていた。初夏の優しい夕日に照らされた海が、その光を私達に投げかけていた。三陸の日没のその光景に、気づいてくれと言わんばかりだった。このおだやかな海が、海とともに生きて、海を愛してきた人たちの住処を、そして尊い命を奪っていった。自然災害の不条理さにやり場のない悔しさを感じた。

初夏を迎えたボランティアセンターは混雑していた。当初は陸前高田市内でこじんまりとやっていたボランティアセンターは場所を変えて大規模になり、被災地を助けようと全国から大型バスで向向いてボランティア活動をしにくる人であふれていた。同じ場所で活動をしている人と話をする。

「東京からです」

「名古屋から来ました」

といった具合に返事が返ってくる。遙々遠方からやって

もない瓦礫の山と、悲しみが残された。そんな被災地に笑顔をもたらし、復興の光を灯したのは、これもまた「未曾有の」人の手と、あたたかい人の心であった。

(二山金剛院 法嗣)



〔支援活動報告〕

3月11日

平泉町内の避難所に飲料（お茶）を提供

3月15日

本堂・金色堂に義援金募金箱を設置

3月18日～4月28日

震災物故者の中陰（四十九日）回向を七日ごとに陸前高田市内にて執行

3月19日

金色堂にて物故者慰霊法要を執行

3月21日～28日

全国天台宗関係寺院及び平泉町内有志者からの支援物資を被災地へ搬送（釜石・大船渡・陸前高田・気仙沼・石巻へ計七回）

3月25日

日本赤十字社に中尊寺一山十七ヶ院の義援金一七〇

万円を寄託

3月27日・29日

陸前高田市広田地区の方々に入浴支援（平泉町内温泉）

3月31日

福島県の被災地に支援物資を搬送

4月2日～4日

陸前高田市長部地区の方々に入浴支援（平泉町内温泉）、平泉町内天台宗寺庭婦人の炊き出しによる昼食提供（中尊寺かんざん亭）

4月10日～

陸前高田市社会福祉協議会災害ボランティアセンターに若手僧侶を継続的に派遣

4月11日～

本堂にて物故者追善月命日法要を毎月執行し追悼の鳴鐘を打鐘

陸前高田市内にて物故者月命日回向を毎月執行

4月15日

天台宗関係寺院からの支援物資を岩手県地域福祉課及び宮古地域振興センターへ送付

4月16日～

一関市仏教会有志による一関市釣山斎苑での被災物故者火葬回向に参加

4月18日

日本赤十字社に中尊寺として義援金一億円を寄託

4月22日

天台宗関係寺院からの支援物資を宮古市生活課支援物資係へ送付

4月28日

本堂にて震災物故者盡七日忌回向法要を執行

義援金募金箱及び中尊寺寒行者に寄せられた浄財三

三四、五三九円を天台宗一隅を照らす運動地球救援募

金に送金

5月1日～

津波による被災地域の修学旅行・遠足等学校行事の拝観料を減免

5月9日

義援金募金箱に寄せられた浄財四四六、六三七円を岩手県共同募金会に送金

5月9日・10日

気仙沼市災害ボランティアセンターに若手僧侶を派遣

5月10日・11日・15日

宮古、山田、大槌、釜石の方々に入浴支援（花巻市内温泉）

5月17日～19日

南三陸町および石巻市災害ボランティアセンターに若手僧侶を派遣

5月30日・31日

大船渡市さんの会の炊き出しボランティアに若

手僧侶四名参加

6月23日

義援金募金箱に寄せられた浄財一、三五八、三二〇円を陸前高田市災害対策本部に送金

7月13日

陸前高田市および大船渡市内に団扇一、五〇〇本を提供

7月28日

義援金募金箱に寄せられた浄財一、一六一、〇八四円を大船渡市災害対策本部に送金

義援金募金箱に寄せられた浄財一、二六〇、三四六円
を気仙沼市災害対策本部に送金

8月13日

震災物故者の初盆回向を陸前高田市内で執行

9月5日

義援金募金箱に寄せられた浄財一、〇八八、〇一四円

を釜石市災害対策本部に送金

義援金募金箱に寄せられた浄財一、〇八八、〇一四円

を山田町災害対策本部に送金

義援金募金箱に寄せられた浄財一、〇八八、〇一四円

を大槌町災害対策本部に送金

9月5日～11日

不動堂にて東日本大震災復興祈願護摩供二十一ヶ座

を奉修

9月26日

支援団体よりお預かりした支援金二〇万円を「いわ

ての学び希望基金」に送金

中尊寺として「いわての学び希望基金」に五、〇〇〇

万円を寄託

9月29日

義援金募金箱に寄せられた浄財一、〇五七、一九五円

を宮古市に送金

10月1日～11月6日

三陸地域の郷土芸能保存会の方々を招いて中尊寺境

内で奉演(土・日・祝日)

10月17日

義援金募金箱に寄せられた浄財六七六、九七一円を

普代村に送金

義援金募金箱に寄せられた浄財六七七、三三七円を

田野畑村に送金

10月27日

義援金募金箱に寄せられた浄財九六〇、三四〇円を

岩泉町に送金

今後も支援活動を継続して参ります。

〈中尊寺総務部〉

風信 / 語録 震災地から届いた「詠草」二首

(佐々木邦世)



今春の、第三十二回西行祭短歌

大会は中止になった。震災後まだ

日も浅く、投稿された短歌は詠草

集として上梓し、作者・関係者に

郵送するだけということになった。

校正の段階になった四月二日、

茶色に変色し傷んだハガキが中尊

寺に届いた。付箋が二枚付いてい

て、「東日本大震災により汚れて

しまいました」「送達が遅れまし

た。何卒ご了承くださいますよう」

と、日本郵便盛岡支店からである。

幸い、文字は消えたり流れたりし

ていない。詠草欄には

意のままに言葉の出でぬもど

かしき病後の兄の言語障害

作者は、陸前高田市米崎町の菅

原洋子と記名筆跡はつきりしてい

る。が、電話番号にしたがつて連

絡しても繋がらない。被災された

ことはわかるが、果たして……。

そこに、実はもう一方、同市高

田の金野さんの作品、

彼の世にもインターネットが

繋がれば父母に告げたし子の

卒業を

この金野さんも震災で犠牲に
なっていた、と知らされた。

私は、岩手日報の谷藤氏に連絡

して、この二人のご家族に照会を

期待した。支局の記者が取材して

くれて、数日後、詳しく載った。

それによると、菅原さん(七九)

はこの投稿のために近くの郵便局

に徒歩で向かって、途中で地震発

生。郵便局は閉まっていた、「は

がきはポストに投函してきた」と

話していたという。いったん高台

に避難したが、履物を履き替える

ために自宅に引き返して津波にの

まれ、行方不明になってしまった

という。

金野さん(六七)は、元高校教

諭。野球部長として、甲子園出場

二回。作歌の経歴は、かつて第七

回西行短歌祭で「校庭に凜と枝張

るさくら樹の光る三月子ら立ちゆ

けり」は最優秀賞(貫首賞)に。

今回の「子の卒業」が遺作となっ

てしまった。
謹んでご冥福をお祈りします。



「復興 信じています」

ドナルド・キーン先生 卓話

わたくしは、最初にここ中尊寺に参りましたのは、今から五十六年前（昭和三十年）です。芭蕉の『奥の細道』をたどって訪ねました。そして金色堂に入って、震えるほど感動して、これこそ極楽浄土だと思いました。あれ以来、現在まで日本を考えない日はありません。

今回、東北は大変な震災に遭いました。でも、終戦直後の、あの廃墟となった東京が見事に復興しました。東北も同じように、必ず復興する、そう信じています。

作家・高見順が、太平洋戦争の末期、あの上野駅で、疎開する人びとがだれも先を争ったりしない、我慢強く堪えていたのを見て、「こうした人々と共に生き、共に死にたい」と書いています。わたくしも、そう、こうした日本人と共に生き、共に死にたいと思います。

〔九月十一日 東日本大震災物故者慰霊法要の後で〕



カレーライスの炊き出しを

佐々木 典子

三月十一日の大震災のあと、さまざまな救援の手が被災地に向かいました。

私達もお役に立ちたい、誰もがそう思いながら、救援物資集めに協力する程度にとどまっていました。

何とか現地に行つて炊き出しをしたいと思い、被災された寺院に申し入れたりもしました。が、道路の状態、治安の悪化、自衛隊による救援などの事情により、なかなか行動に踏み切れずに過ぎてしまいました。

中尊寺の若い和尚さん達は、交替で救援物資を被災地に運んでいましたが、そんな折、陸前高田の人たちを平泉町内の温泉に招待することになり、この方々に昼食を作つて差し上げるといふ機会を得ました。

四月二日から三日間、会場は中尊寺の「かんざん亭」で

す。メニューはカレーライスと野菜の和え物、これに母とシュークリームを添えました。

一日平均七十名分を、中尊寺、毛越寺、満福寺の寺庭婦人十五名が参加して用意しました。

被災から既に三週間経つていましたが、この日初めて入浴した、初めて暖かいお茶を飲んだ、という声が聞かれ、私達は応答に詰まつてしまいました。

毎日シュークリームを作つて届けてくれた町内「吉野屋」の吉野崇さんは、「いわてみんなのうた」の『だいこんこん』の作者です。

この時も、歌とおしゃべりで会場の雰囲気をはらげられました。

大震災から七ヶ月経つた今でも、めざましい復興には至らず、多くの方々が苦しんでおられる現状です。私達も、支援を必要とする機会を見つけ、行動していかなければならないと思います。

(会長)



明日を願って

高田松原

北米に伝播した 天台仏教の法灯

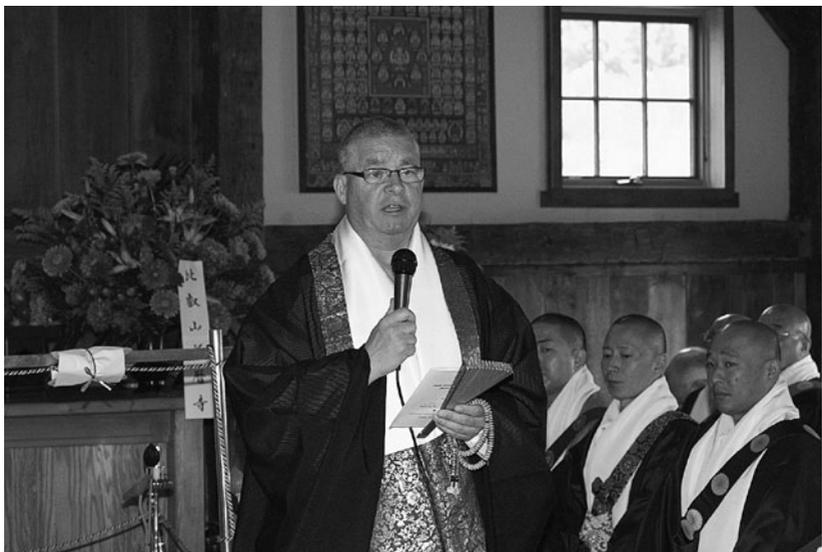
聞真・ポール・ネエモン

ここ天台宗ニューヨーク別院・慈雲山天台寺は、マンハッタンから約百六十キロ北上したニューヨーク州とマサチューセッツ州の州境に位置します。草原や森林に囲まれた環境にあり「大草原の小さなお寺」と言ったところでしょうか。

山田俊和貫首と初めてお会いしたのは二〇〇〇年、天台宗ハワイ別院で行われた海外伝道師認証式でのことでした。翌年の春、当時天台宗海外事業団副理事長であられた山田貫首は、西郊良光理事長（現天台宗宗機顧問）・蘭実丞事務局長（現副理事長）・斉藤圓真前大正大学教授（現天台宗教学部長）と御一緒に、ニューヨーク別院の前身であるカルナ天台達磨センターをご訪問下さいま

した。前回お会いした常夏のハワイとは打って変わり、北国の当地。冬は氷点下三〇度以下まで冷え込むこともございます。その頃は古い馬小屋の一部を本堂として活動していましたが、本堂の薪ストーブを全開にしても吐く息が白い中、メンバーと共に止観や法話をご一緒に下さった事を覚えております。

ご訪問頂いたその年の暮れには、事業団の皆様のお力添えで、「大草原の小さなお寺」は天台宗ニューヨーク別院として認証されるまでになりました。またその数年後には、多くの方々のご支援で、老朽化が進んでいた馬小屋を解体し本堂として改築。二〇〇五年六月には新本堂の落慶法要が厳修されました。本堂工事の地鎮祭から落慶一周年記念関係行事、そして昨年行われました本堂落慶五周年記念法要等、ニューヨーク別院の節目毎に、山田貫首は別院まで足をお運び下さり、私達の活動をご支援して下さいます。



聞真・ポール・ネエモン住職（ニューヨーク別院にて）

さて、天台の教えを通しアメリカの人々に仏教を広く学んでもらう場として、ニューヨークの片田舎にカルナ天台達磨センターを開設したのは、今から十六年前のこと。東洋哲学に興味があり、アメリカでは禅を学んでおりましたが、一九八九年人類学研究の為、家内と共にアメリカからブラジルそして日本へと渡りました。来日直後、大正大学教授の一島正真先生（現同大学名誉教授）と出会い、先生の下で五年半程天台仏教を学ぶ機会に恵まれました。その間天台僧として得度を受け、一九九四年の秋、天台仏教の寺院を設立すべくアメリカへ戻って参りました。

ニューヨーク州グランド地域にある、築百八十五年程の古い農家の家を購入し修理・改築作業を開始。ペンキ塗り等の作業が続く中、一九九五年四月に第一回の「座禅会」を開催しました。それ以来、毎週水曜日の講義・止観・法話・持寄り夕食会の集まりは、欠かすことなく続いております。この活動はニューヨーク別院の主要活動であり、毎週

二十五〜四十名が集まります。また、毎月第一土曜日は經典の勉強会を行い、時間をかけて經典を学ぶ機会を設けています。その他、年三回の週末リトリートには、メンバー以外北米各地は勿論、時には海外からの参加者もあります。

一部の大都市を除けば、人口密度が低いアメリカ。メンバーの中には毎週七十〜八十キロも離れた所から「座禅会」に参加する人達もいますが、天候が悪い時期等、毎週の参加には無理がありません。このようなことから、カルナ天台達磨センター設立数年後には、支部的グループ、西サンガ（ニューヨーク州オルバーニー）と東サンガ（マサチューセッツ州グレートバーリントン）を結成。夫々の地元グループで毎週「座禅会」を行い、数週間に一度ぐらいの割りりで別院の活動に参加する人達も増えてきました。現在活動している別院のサンガ・グループは、ニューヨークに二つ、ワシントンDC、コロラド州デンバー、カナダのオタワ、そしてデンマークの四グループです。

座禅会や勉強会そしてリトリートの他、ニューヨーク別院での主要活動の一つに「堂衆行」があります。約二週間の修行期間で、毎年六月に開催。この堂衆行はより深く天台仏教を学びたいと言うメンバーの希望を叶える為十四年前に開始しましたが、サンガ・グループが形成されて行く中、その目的は「サンガ・リーダーの育成」に移行。そしてカルナ天台達磨センターが正式に天台宗ニューヨーク別院と認定されてからは、今まで以上に「天台仏教を学びたい」「天台の僧侶になりたい」と言う問合せをアメリカ国内のみならず海外より受けるようになり、堂衆行の内容もそれに対応すべく変化して参りました。毎年十二名から二十数名が参加し、堂衆行の間、別院は修行道場と一変します。

毎年の恒例行事では、大晦日から新年にかけての法要・座禅会、新年会、施餓鬼会、授戒会があります。その他特別行事として、書道作品展・示云、書道や華道のワークショップ、茶道のデモンスト

レーション等、日本文化を紹介する機会を設け、メンバーのみならず地元の人達との交流も深めるように努めております。



小森秀恵戒師の下6名が得度（平成22年10月23日）

「一隅を照らす運動」としてはメンバーと共に、ホームレスや貧困者対象の食事提供所での作業や食料品提供、公共道路や地元公園の清掃、老人ホーム訪問等を行い、また地元団体と共に貧困家庭対象に暖房用資金提供活動にも携わっております。住職個人としては、日本の寺院と同様、冠婚葬祭の依頼や悩み事相談を受ける他、ホスピスの生命倫理委員、ホスピス・チャプレン、異宗教間対話団体の仏教徒代表、環境保護団体の顧問委員としての活動も行っています。

ニューヨーク別院となったことで、必然的に英語圏に於ける天台宗の窓口となり、今まで以上に沢山の質問を受けるようになりました。未だに西洋では仏教は少数派の宗教ながら、天台仏教に興味を持っている人が大勢いることを、これらの質問に対応する中で痛感しています。天台の教えを、西洋人に如何に理解し易い形で説明していくのか……これが、西洋で布教して行く中で一番のポイントになります。

多くの方々のご理解とご協力により北米に灯された天台の法灯。試行錯誤しながらも、この十六年間布教活動を続けて参りました。仏教が完全に北米に根をはる迄にはまだ暫くの歳月がかかることですが、この灯火を消すことなく、諸先生方のご指導の下、地に足をつけた活動で一步一步邁進して行きたいと思っております。

＊宗教的修行に専念する為教会や寺院等に籠もって行う静修・瞑想・修養会。

後 書

中尊寺寺報「関山」に原稿を提出させて頂いて間もなく、東日本大震災が発生。東北地方と関東地方は未曾有の大地震に襲われました。その様子はテレビやインターネットを通して一斉に世界中に流れ、現実とは信じられないような画像の前に、皆言葉なく立ち尽くすのみでした。

日本への電話回線が不通な中、日本大使館・公使館、



ニューヨーク別院五周年の記念植樹

そして大学や学術関係等日本の状況に詳しい人達の間でネットワークが立ち上がり、情報交換の場が見る見る内に出来上がりました。暫くして、中尊寺の皆様も入り、安堵したものでございます。

しかし状況を把握すればするほど、日本から遠く離れ何も出来ないでいる自分達が齒痒く思われしかたがありませんでした。そのような私達のもとへ、長いこと連絡を取り合っていた旧友や殆ど面識もなかったような人達等、地元はもとより世界中の友人・知人より、日本の安否を気遣う暖かい言葉が、ニューヨーク別院へ届けられました。祈りの力を、今回程実感したことはありませんでした。その様な中で集まった義援金は、沢山の人の思いと共に「一隅を照らす会」へ届けさせて頂きました。この先も、僅かながらでも出来る限り義援金をお送りし、多くの方々を被災地の皆様へお届けすることができれば、と考えております。

この「関山」をお読みになる方々の中には、犠牲

になられた方々も多くいらつしやることと存じます。復興までには、長い歳月がかかることでしょう。辛く苦しい日々が打ちのめされそうになった時は、世界中の人達が日本復興を願い、祈りを捧げていることを思い出して下さい。そして、私達にできることがあれば、お声をかけて頂きたく存じます。宜しくお願い致します。

最後になりましたが、この場を借りまして、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

プロフィール

もんしん・ぼーる・ねえもん

オルバニー大学大学院生時代東京大学医学部研究生として来日。その折一島正真師に師事。現在天台宗ニューヨーク別院慈雲山天台寺住職。

一陽來復

〈平成二十二年〉

佐々木 邦世

十一月に、上州世良田の普門寺に伺った。深谷駅から、途中、赤城・榛名の山々を遠く窓外に望み、竣工成った本堂に至り、客殿に通された。まさに「紅葉青山望裏の秋」(裏はすぐ其処の意)と目に映った。

私がこの世良田をはじめて訪ねたのは、もう四十四、五年も前になるうか。関東天台の古刹、世良田長楽寺の史料採訪をお願いして、型の古い、重たいマイクロカメラ一式を車に収めて、史学研究室の先輩や後輩と、ここに来た。今でこそ、『群馬県史』や史料纂集『長楽寺文書』として活字になってはいるけれども、当時はまだ、長楽寺の蔵に実際にどんなものがどれだけ遺っているのか定かではなかった。その採訪の折に、すぐ近くの普門寺におじゃまして、大沢前住職にお目にかかったのが初めである。

蔵ほかみな焼失したと記録にある。

その後に再興されたのが我々の訪ねた普門寺であった。

しかし、平成十六年六月一日の未明、本堂より出火。御本尊釈迦尊像も、庫裡も全焼してしまった。

その秋、地元の檀信徒世話人会の方々が立ち上げた再建委員会の、六年余にわたる協心努力。恒例五月の大般若会も、九月の施餓鬼会もテントを張って、天気予報を気にしながら導師は長靴を履いて光明供の法則を唱えたという。住職のひたすらな思いが地区の人びとに支えられて、ここに「如意山円頓宝戒院普門寺」は再建成ったのである。

落慶法要のこの日、境内に参じた地元の方々のお顔には、あれこれ振り返ってようやくこれまで成った達成感とか、安堵感とか、そうした殊さらの雰囲気は感じられなかった。落胆、困惑、後始末からの六年は大変だったに違いない。ようやくほっとした思いは、みんなもっているだろう。けれども、それを、言葉や顔に出すようなこともなく、常のごとく淡々としておられる。それだけに、かえって地域の

長楽寺の古文書の多くは卷子表装されていたが、それは別に鎌倉時代、宝治元年(一二四七)の開山栄朝の補任状や、聖教類の冊子『灌頂持誦秘録』には、「大永八天(一五二八)世良田普門寺灌頂道場に於て伝授す」云々などの記述があり、近世、天海による復興への緒、東叡山の支配にかかわる一連の「中興文書」など、貴重な史料を披見できた。

なかに、寛永十四年(一六三七)に末寺三十七カ寺が連署し長楽寺の蓮華院流灌頂の退転を天海に訴えた書状があった。鬼石(藤岡市)の浄法寺はじめ、一之宮(富岡市)光明院、厩橋(前橋市)の寿延寺や極楽寺、深谷の吉祥寺や瑠璃光寺、武州(比企郡)慈光寺などと共に、世良田の普門寺が署名していた。そしてそれには、「遠き末寺四百八十箇寺のあいだ」とも記している。言ってみれば、それら諸寺とは格の別な三十七カ寺のなかの一寺、上州御当地にあつて伝統・由緒、周知の古刹と見なされていたわけである。

普門寺は、江戸時代、享保二年(一七一七)に本堂・経

方々の深い思いが察せられて、ご臨席の関係者、宗内の御住職方のご挨拶にも、特にもつて回った褒め言葉などは聞かれなかった。これは、住職大沢亮湛さんのいつも通りの、飾らない人柄を反映したものでしょう。

御導師多田孝正師の表白を聴きながら、そう思われた。



本尊 釈迦如来坐像

本堂の落慶に映え冬紅葉 大沢和世(寺婦)



実は、この世良田普門寺は、中尊寺にとってご縁の深いところである。現在の亮湛氏からは三代前になる塚田亮澄僧正は、大正二年に中尊寺住職（中興以来第二十世貫首）として普山。金色院を兼帯されただけでなく、特命により普門寺もそのまま兼務されている。時に四十二歳。

そして、同五年には天台宗議会議員、宗会議長に選任される一方、抜擢されて比叡山天台会講師を勤仕している。

時代は、第一次世界大戦、そして十二年には関東大震災。そうしたなかで、「時局対応ノ途ヲ尽クスニ違算ナク」、すすんで「帝都焼失寺院復興委員」として対処している。また、学事の方面については「各宗派聯合大学設置ニ関」して、他宗派に率先して承認を得て、現在の大正大学創立となった経緯も、当時の『宗報』議事録に詳しい。

目は、宗政・本庁の方だけに向いていたわけではなく、世界大恐慌の起こった翌、昭和五年、中尊寺の金色堂ならびに同覆堂の修理を、代表責任役員として、所期のごとく

円成されている。

中尊寺貫首、在職二十二年は、もとより歴代最長である。

昭和九年三月十日 示寂。法名「大般若院権大僧正亮澄」生涯に「大般若経」六百巻を、真読、三度に及んだという。

近世初期、上州世良田普門寺住持は、宗内の絆を大切にしながら、退転して久しかった長楽寺の灌頂復興に動いた。大正期、普門寺亮澄師は天台宗の復興施策に当たりながら、帝都焼失寺院の再建を扶け、かつ、国宝・金色堂保存修復工事を遂行して、その任を果たされた。

いま、普門寺ご住職亮湛さんは、地域の方々と一丸となつて本堂・客殿を再建し、新たに本尊釈迦像を開眼された。まだまだ成すべきことはあると思うが、信は莊嚴によるといわれる。これまで再建にかかわることのできた檀信徒の方々は、それぞれにご縁を結ばれ、それぞれの仏教を、頭でなく実感として得られたのではなからうか。そう思える、ほんのりとしたお寺の雰囲気であった。



本堂正面

この光、永久に絶えず、拙き歩み照らしたまえ ♪

落慶法要も、厳修ごんしゅうという堅苦しさはなく、僧も俗も一緒に合唱してお開きにされたのも、それなりに好感がもてた。

「一陽来復」、上州にもみちのくにも、また春が来て温かい陽がさしてくる。普門寺のみなが一歩一歩、好い方向かって地縁・仏縁、絆を深くしていかれるよう祈りたい。

（中尊寺仏教文化研究所長）

本尊 丈六釈迦尊像の造立

「こころ」と形

こころは 形に現れる
形は こころに現れる

形は像で、仏像は、仏のこころを現しているということです。仏のこころとは、大慈悲心です。経に曰く、

「この娑婆世界に仏有し、釈迦牟尼と名づけたてまつる。

今、諸々の菩薩のために大乘の経、妙法蓮華経を説きたもう。

まさに深心に随喜し、礼拝供養すべし」と。

衆生は合掌し「南無釈迦牟尼仏、南無釈迦牟尼仏」と唱えた。

釈迦牟尼、牟尼は尊称で、「南無」は一筋にたのむことです。

大乘仏教の眼目は、「自利利他円満」であります。実現すべくもない、とあきらめ捨ててしまわないで、そう信じて、それを求めるのが人間の在りようです。

その根底にあるのは、釈尊の最期を述べた大般涅槃経に曰く、

「一切衆生 悉有仏性」

皆だれにでも仏性がある、という宣言です。

「仏性」、性とは仏となる素因という意味です。

そこに気づき、互いに美しく調和しながら、それぞれの個性、尊厳を保って生きていく姿、「いのち」の実相を説いているのがまた、浄土の教えです。

天台宗寺院のお勤めは、「朝題目、夕念仏」といわれますように、朝には法華経を誦誦し、夕べに阿弥陀経を上げます。

釈迦の説かれる慈悲の法体（本質）が、姿となったものが阿弥陀如来であり、釈迦如来は密教の本尊大日如来と二仏一体の法身で、真実というものは一体であります。

中尊寺大檀主・藤原清衡公の「供養願文」には、はじめに

「丈六皆金色の釈迦」像を安置し奉る、

と陳べられている。これが大伽藍の本堂、中尊寺の御本尊であり、「丈六の皆金色」とは、周尺で人間の身長八尺の倍数、仏蔵浄土の仏の尊容をそこに現し、こころに見て拝んだわけです。中尊寺境内は、そうした諸仏摩頂の場でありました。

しかし、その後歴史のなかで亡くした丈六の釈迦尊像を、いつか本堂の御本尊に――。これは、一山の宿望でありました。

ここに、本尊釈迦尊像の造頭を発願致しまして、参詣される人々に仏の尊容を拝して、相好（さうこう）こころに接する縁としていただけるようにと、漸く一步を進めた次第です。これに遠近から、多くの方々が思いをつながれ、浄財を寄せてくださいました。

時恰も、明後年は開山慈覚大師（円仁）の千百五十年遠忌に当たります。永く結縁の徴として、本誌に御芳名を載録させていただく所以であります。

敬白

平成二十三年三月

天台宗東北大本山 中尊寺

本堂新御本尊造立にあたって

仏師 坪田 最有
聞き手 菅野 澄 円

平成二十二年正月の中尊寺本堂新御本尊釈迦如来像造立発願以来、有縁の皆様のご協力により、事業は着々と進んでいます。

仏師坪田最有師は、京都府亀岡市の庵で釈迦如来像の制作をすすめています。昨年十月末に、坪田師の庵を訪ねました。

——坪田先生、今日はいろいろと見学し、お話を伺いたいと思っております。東北人にとって京都というとまさに都をイメージするのですが、先生の庵は静かなところにありますね。

坪田 中尊寺さんに丈六の仏像制作を依頼されてから、あちこち探していたのですが、この土地を所有する知人がおりまして、急遽建てたものです。近くに食事

をするところもない田舎です。建物を建ててから気が付いたのですが、この辺りは鹿谷かやという地名でして、お釈迦様が最初に説法された地「鹿野苑ろくやえん」に通じてご縁を感じました。

——仏師になられたのは何故ですか

坪田 曾祖父が明治期の寺社仏閣の修理にたずさわった宮大工で、あるとき京都に移り住んだと聞いています。

私の父は普通の仕事をしていましたが、小さい頃から「手先が器用なのはひいおじいさんの血筋だ。」と



言われていました。また、祖母に連れられて京都のお寺さんにお参りするうちに、自然に信仰心は生まれましたと思います。ただ若い頃は彫刻家を目指して

いました。なかなか思うようにはいかず、それでは芽が出ませんでした。あるとき同期の友人に誘われて松本明慶師匠のお手伝いをさせていただいて、弟子入りしたわけです。気むずかしい師匠でしたが、今があるのは師匠のおかげです。

——中尊寺の本尊造立の仏師を任されたときのお気持ちは？

坪田 師匠から「仏師は丈六仏をつくって初めて一人前」と教わりました。自身それを目標としていましたし、まして中尊寺さんの御本尊を任され、大変名誉なことと思っております。八百年ぶりの一大事業でしょうが、もともと興奮しているのは実は私なのだと思えます。日々やりがいを感じながら作業をしています。

——先生にはこれまでも、金色堂西南壇の増長天像の造立、

不動堂の不動明王修理等でお世話になっていきます。中尊寺の仏像についてどんな印象をお持ちでしょうか？

坪田 増長天については、国宝の中に一緒に安置される訳ですから、非常に神経を使いました。何も資料のないところから創り出すわけではなく、対をなす持国天、中央壇と西南壇の増長天と参考にさせていただける仏像があります。ただ、コピーのような簡単なことではなく、九百年前の仏師と見比べられるわけで、これは自分への挑戦でもありました。

初めて中尊寺を訪れたときは緊張しましたが、一山の皆さんと話し合ううちに、金色堂に対する思いが伝ってきました。和尚さん一人一人、様々な意見をおっしゃるのですが、出来るだけその意を形にしようと思えました。このときは国産の漆を使わせていただき、その漆職人もこんな経験はなかなか出来ないと喜んでいました。

お不動さんを修理させていただいたときは、確かに地震の影響で足が折れてしまったのですが、おそらくそれ以前にも何度か修理されていた箇所だと思いま

す。まあ人間で言えば複雑骨折でした。光背の火炎も何とか立っている様な状態でした。この仕事をしているといつも思うのですが、そのような状態の仏様が私の前にいらつしやるということが、ご縁であり、私が何をすべきかを教えてくれているのだと思います。今思えば、そのご縁が丈六仏に繋がっていったわけです。

——現在の作業状況について教えてください。

坪田 今、ここで作業しているのは寄せ木の工程です。皆さんがご覧になつたら、なにか大きな積み木でもしているようにしか見えませんが、説明されなければ仏像を削っているとはわからないでしょう。この作業で材に強度がでますし、同時にフシを内側に隠してゆく作業もしています。

寄せ木造りは、平安時代に定朝が確立しました。平等院の阿弥陀如来像が代表的です。よく学術的な調査で、仏像を解体したとき「何千パーツ」などとその数の話題ばかりが先行しますが、パーツ(部分品)

——これからの作業について予定を教えてください。

坪田 寄せ木の工程はまもなく終わります。次に粗彫り・内削り(うご)を経て、一旦組み立てて、中尊寺の皆さんにご確認いただきます。そこからは仏様の表情や手の角度など、非常に繊細な作業になると思います。漆塗り・金箔押しを経て、平成二十四年秋の完成を目指しています。

——坪田先生、本日はありがとうございました。

この後、平成二十三年一月末に中尊寺本堂御本尊造立委員会が坪田師の庵を訪れ、組み立てられた状態の確認、細部の打合せをしました。進捗状況については、今後も皆様にご報告して参ります。

を寄せたのではなくて、寄せ木を彫刻した結果としてのパーツです。檜の寄せ木造りが千年保証ことは歴史が証明していることです。千年保証させるにはこの寄せ木の工程が



非常に重要です。作業の初期なのでこの工程が続きますが、それでは積み木細工のようにしか見えませんが、皆さんもイメージしにくいと思います。私自身面白くありませんので、お顔と手は粗彫り(あらい)をしています。年内には、粗彫りしたお体にお顔をのせて、完成を想像できる状態になるかと思っています。

プロフィール

つばたさいゆう

京仏師

昭和三十一年

京都市生まれ

昭和五十一年

大仏師松本明慶氏に師事、仏像彫刻の修行に入る

昭和六十一年

京都仏像彫刻展(京都仏像彫刻家協会主催)にて、協会賞(愛染明王)を初受賞

平成三年

師匠より独立

以後、京都市左京区真如堂麓の自房にて制作活動をはじめ



最有師の庵にて

本尊造立結縁浄財寄進 御芳名

中尊寺貫首	山田俊和様	一千万円	奥州市	(株)回進堂様	五十万円
中尊寺前貫首	故千田孝信様	三百万円	平泉町	朝田建設(株)様	五十万円
一関市	一関信用金庫理事長 小野寺勝宏様	五百万円	東京都	(株)小西美術工藝社様	五十万円
一関市	(株)精茶百年本舗様	五百万円	京都府	佐川急便(株)様	五十万円
平泉町	川嶋印刷(株)様	三百万円	日光市	観音寺様	三十万円
平泉町	(株)平泉観光レストセンター様	三百万円	東京都	西光寺様	三十万円
東京都	最勝寺様	一百万円	平泉町	満福寺様	三十万円
千葉県	泉養寺様	一百万円	盛岡市	(株)岩手銀行様	三十万円
平泉町	(株)フタバ平泉様	一百万円	一関市	(株)東北銀行様	三十万円
花巻市	花巻温泉(株)様	一百万円	一関市	(株)佐々木製菓様	三十万円
盛岡市	川村和正様	一百万円	一関市	両磐酒造(株)様	三十万円
千葉県	蜂谷克己様	一百万円	平泉町	(有)平泉観光写真社様	三十万円
群馬県	常住寺様	五十万円	平泉町	(株)平泉ホテル武蔵坊様	三十万円
一関市	宇部建設(株)様	五十万円	平泉町	小岩金網(株)様	三十万円
			平泉町	吉祥寺様	二十万円
			平泉町	葛西石材店様	二十万円
			平泉町	菅原 健様	二十万円
			平泉町	オノデン様	十五万円

一関市	山田 雪様	十五万円	平泉町	駅前芭蕉館様	十万円
滋賀県	円乗院様	十万円	平泉町	(有)小岩材木店様	十万円
東京都	圓通寺様	十万円	平泉町	(有)泉橋庵様	十万円
平泉町	達谷西光寺様	十万円	平泉町	(有)千葉製材所様	十万円
神奈川県	大宝寺様	十万円	平泉町	(有)銅盛鋳金工業様	十万円
平泉町	平泉町白山神社 関宮千代丸様	十万円	平泉町	(有)芭蕉館様	十万円
秋田県	(株)丸松銘木店様	十万円	平泉町	平泉喜桜会様	十万円
一関市	いわいケイタリング(株)様	十万円	平泉町	(有)平泉電友社様	十万円
一関市	コンカツ印刷(有)様	十万円	平泉町	(有)丸貞工務店様	十万円
一関市	(株)佐々木組様	十万円	平泉町	(有)丸庄様	十万円
一関市	松竹様	十万円	盛岡市	松岡昭治様	十万円
一関市	菅勇生花店様	十万円	一関市	鈴木一郎様	十万円
一関市	世嬉の一酒造(株)様	十万円	平泉町	小松代啓子様	十万円
一関市	(株)斎藤松月堂様	十万円	平泉町	菅原イキ子様	十万円
一関市	ベリーノホテル一関様	十万円	平泉町	菅原杏子様	十万円
一関市	ホテルサンルート一関様	十万円	平泉町	高橋一男様	十万円
平泉町	安彦商店様	十万円	平泉町	千葉喜一様	十万円
平泉町	(有)泉商店様	十万円	平泉町	千葉 繁様	十万円
平泉町	(株)衣関屋様	十万円	東京都	小西暲也様	十万円

茨城県	安倍鴻祥様	十万円	平泉町	(有)吉野屋様	五万円
愛知県	茶谷 昇様	十万円	東京都	三義産業(株)様	五万円
愛知県	内川 晋様	十万円	京都府	(株)中郷様	五万円
仙台市	渡辺琢也様	十万円	仙台市	能美防災(株)東北支社様	五万円
石巻市	鈴木公彦様	十万円	山形県	瀬見温泉観光協会様	五万円
一関市	(資)古川ポンプ製作所一関支店様	六万円	一関市	松川 誠様	五万円
滋賀県	延命院様	五万円	一関市	八重樫貞子様	五万円
奥州市	勝軍寺様	五万円	北上市	菊池國雄様	五万円
奥州市	東漸寺様	五万円	平泉町	青木 茂様	五万円
奥州市	法泉寺様	五万円	平泉町	鈴木多佳子様	五万円
盛岡市	(株)ホテル大観様	五万円	平泉町	橋本英雄様	五万円
一関市	(有)ウジエ看板工芸様	五万円	平泉町	山平省一様	五万円
奥州市	えさし藤原の郷様	五万円	東京都	若桑 巖様	五万円
奥州市	白金運輸(株)様	五万円	埼玉県	栗生田勝吾様	五万円
奥州市	新星興産(株)様	五万円	神奈川県	佐藤芙蓉様	五万円
平泉町	翁知屋様	五万円	神奈川県	鈴木教之様	五万円
平泉町	高梁様	五万円	千葉県	平野行雄・幸枝様	五万円
平泉町	(有)平泉レンタカー様	五万円	兵庫県	奥井茂子様	五万円
平泉町	丸米穀店様	五万円	仙台市	阿部久美様	五万円

登米市	興福寺様	三万円	盛岡市	高橋克彦様	三万円
滋賀県	弘法寺様	三万円	一関市	大森忠雄様	三万円
東京都	自性院様	三万円	一関市	佐藤育郎様	三万円
神奈川県	成願寺様	三万円	一関市	菅原喜重郎様	三万円
千葉県	泉養寺様	三万円	一関市	千葉 章様	三万円
一関市	一関書道用品センター様	三万円	一関市	畠山瑞穂様	三万円
一関市	一関俳句協会会員有志様	三万円	奥州市	佐々木 久様	三万円
一関市	(株)亀の子せんべい本舗大浪様	三万円	奥州市	依田養一様	三万円
一関市	(株)佐原様	三万円	奥州市	千葉アツ様	三万円
釜石市	(有)水戸板金工業様	三万円	平泉町	今野忠夫様	三万円
平泉町	及川木工所様	三万円	平泉町	齋藤清壽様	三万円
平泉町	こがさか楓林堂様	三万円	平泉町	佐藤孝悟様	三万円
平泉町	古都ひらいずみガイドの会様	三万円	平泉町	千葉栄五様	三万円
平泉町	平泉町消防団第五分団様	三万円	平泉町	千葉多嘉男様	三万円
平泉町	星畳店様	三万円	平泉町	得田ツネ様	三万円
東京都	(有)久志本様	三万円	平泉町	山田順作様	三万円
埼玉県	(有)桜井様	三万円	東京都	木村智広様	三万円
京都府	(株)おく井様	三万円	東京都	佐々木昭一様	三万円
盛岡市	川代国雄様	三万円	千葉県	山口陽子様	三万円

埼玉県	伊藤泰二様	三万円	滋賀県	金剛輪寺様	一万円
埼玉県	鎌田観良様	三万円	群馬県	正円寺様	一万円
愛知県	館本勲武様	三万円	浦谷町	松本坊様	一万円
岡山県	安倍安人様	三万円	東京都	龍眼寺様	一万円
高知県	上居豊榮様	三万円	兵庫県	龍藏寺様	一万円
新潟県	松原晴樹様	三万円	一関市	(株)金澤電気工業所様	一万円
大崎市	佐々木則雄様	三万円	北上市	(株)東北永愛友商事様	一万円
奥州市	(株)えさしわいわいネット様	二万円	平泉町	(株)県南タクシー平泉営業所様	一万円
平泉町	一関一高三六会様	二万円	神奈川県	(株)博古堂様	一万円
奥州市	和賀直人様	二万円	京都府	潮音堂様	一万円
平泉町	小松代 智様	二万円	秋田県	武石芳明様	一万円
東京都	石川悦子様	二万円	秋田県	永田裕子様	一万円
東京都	加藤湘堂様	二万円	盛岡市	安藤 厚様	一万円
栃木県	長島時子様	二万円	盛岡市	板橋慶子様	一万円
山梨県	上田義二郎様	二万円	盛岡市	小松敬一様	一万円
仙台市	小畑 信様	二万円	盛岡市	野口芳子様	一万円
山形県	芳賀次郎右衛門源様	二万円	盛岡市	東根千万億様	一万円
群馬県	栄命寺様	一万円	滝沢村	大矢邦宣様	一万円
栃木県	感應寺様	一万円	一関市	金澤宏治様	一万円

一関市	佐藤トモ子様	一万円	平泉町	千葉アツ様	一万円
一関市	菅原計二様	一万円	平泉町	三澤恵美子様	一万円
一関市	鈴木英一様	一万円	青森県	鈴木朝子様	一万円
一関市	鈴木五助様	一万円	東京都	浅野甲子樹様	一万円
一関市	中村いせ子様	一万円	東京都	乾 侑美子様	一万円
一関市	堀内ツエ子様	一万円	東京都	北嶺淳朴様	一万円
一関市	間室 胖様	一万円	東京都	三丁目明德様	一万円
奥州市	飯森 功様	一万円	東京都	友田美由紀様	一万円
奥州市	梅森サ夕様	一万円	神奈川県	飯田雅代様	一万円
奥州市	菅野利代様	一万円	千葉県	小野寺洋子様	一万円
奥州市	菊池ノブ様	一万円	埼玉県	須田 清様	一万円
奥州市	千葉慶助様	一万円	静岡県	真野あつ子様	一万円
奥州市	千葉俊一様	一万円	静岡県	吉澤 淳様	一万円
奥州市	服部常子様	一万円	岐阜県	田中旭泉様	一万円
花巻市	高橋幹子様	一万円	大阪府	辻林正博様	一万円
遠野市	千葉耿史様	一万円	奈良県	鈴木嘉吉様	一万円
平泉町	岩渕広治様	一万円	山口県	山本紘一郎様	一万円
平泉町	斉藤三哉男様	一万円	長崎県	大河由記子様	一万円
平泉町	千條一男様	一万円	宮崎県	伊藤一彦様	一万円

仙台市	花島伸行様	一万円	埼玉県	小林紘子様	五千円
仙台市	廣川てる美様	一万円	埼玉県	堀内智實様	五千円
塩釜市	前谷昌昭様	一万円	長野県	小林正樹様	五千円
山形県	須藤秀三郎様	一万円	静岡県	間渕うめ子様	五千円
山形県	田桑良子様	一万円	南三陸町	山口 昇様	五千円
盛岡市	相原康二様	五千円	盛岡市	鈴木トシ様	三千円
盛岡市	大村みつ子様	五千円	盛岡市	武田太良様	三千円
盛岡市	宮澤徳雄様	五千円	紫波町	照井 始様	三千円
盛岡市	森 ノブ様	五千円	平泉町	野里昭文様	三千円
一関市	砂金青鳥子様	五千円	青森県	田辺法子様	三千円
一関市	山口栄子様	五千円	福島県	笹山まり子様	三千円
奥州市	木村文子様	五千円	仙台市	佐藤れい子様	三千円
北海道	村口初男様	五千円	仙台市	七海雅人様	三千円
東京都	岩切和子様	五千円	仙台市	福田みどり様	三千円
東京都	菅原弘太郎様	五千円	一関市	桂田一男様	二千円
東京都	米村義道様	五千円	一関市	亀掛川永子様	二千円
神奈川県	秋吉景子様	五千円	盛岡市	木村勝一様	一千円
千葉県	佐藤典子様	五千円	茨城県	市村 礼様	一千円
千葉県	佐藤博俊様	五千円	新潟県	宮村勝彦様	一千円

仙台市 小野亮子様 一千円

総代

平泉町 千葉 明様 十六万円
 平泉町 菅原信行様 十万円
 平泉町 菊地繁志様 八万円
 平泉町 千葉和夫様 八万円
 平泉町 千葉正佳様 八万円

世話人

平泉町 千葉栄喜様 十万円
 平泉町 小野寺逸平様 六万円
 平泉町 小野寺誠吉様 六万円
 平泉町 佐々木正治様 六万円
 平泉町 佐藤 正様 六万円
 奥州市 佐藤義美様 六万円
 平泉町 菅原悦朗様 六万円
 平泉町 菅原俊美様 六万円
 奥州市 菅原善文様 六万円

檀徒

平泉町 鈴木 信様 六万円
 平泉町 鈴木正人様 六万円
 平泉町 千葉 進様 六万円
 平泉町 千葉武一様 六万円
 平泉町 岩渕孝一様 三万円

三十五万円

一関市 太田耕二様 二十万円
 平泉町 岩渕 汪（いづし）様 二十万円
 平泉町 関口一雄様 二十万円
 衣 関 千葉信夫様 二十万円
 東京都 佐々木宗生様 十三万円
 平泉町 朝田茂子様 十万円
 平泉町 岩間智子様 十万円
 平泉町 関口恵智子様 十万円
 平泉町 千葉慶一様 十万円
 平泉町 岩渕勝次郎様 六万円
 一関市 佐々木孝夫様 五万円
 一関市 七田芳弘様 五万円

平泉町	菅原弘明様	五万円	一関市	及川次男様	三万円
平泉町	千葉文夫様	五万円	一関市	小野寺忠幸様	三万円
平泉町	南館廣太郎様	五万円	一関市	小野寺剛様	三万円
東京都	千葉勝也様	五万円	一関市	加藤邦英様	三万円
秋田県	千葉輝子様	三万円	一関市	菊地源太郎様	三万円
盛岡市	朝田泰子様	三万円	一関市	金野恒久様	三万円
盛岡市	勝部民男様	三万円	一関市	齋藤憲昭様	三万円
盛岡市	菅野 彊様	三万円	一関市	佐々木安子様	三万円
盛岡市	菊池 尚様	三万円	一関市	佐藤研一様	三万円
盛岡市	菅原幹雄様	三万円	一関市	佐藤太郎様	三万円
盛岡市	杉本芳博様	三万円	一関市	東海林精之助様	三万円
滝沢村	岩渕良昭様	三万円	一関市	菅原キヨ子様	三万円
滝沢村	千葉 昭様	三万円	一関市	高橋英雄様	三万円
一関市	安彦 仁様	三万円	一関市	千葉 徹様	三万円
一関市	阿部幸男様	三万円	一関市	千葉信行様	三万円
一関市	石川和也様	三万円	一関市	鳥畑美江子様	三万円
一関市	岩淵一彦様	三万円	一関市	三浦 満様	三万円
一関市	岩渕克英様	三万円	一関市	村岡悦子様	三万円
一関市	岩渕賢吾様	三万円	一関市	八重樫公彦様	三万円

一関市	梁川 浩様	三万円	奥州市	佐藤裕紀様	三万円
奥州市	阿部常二様	三万円	奥州市	佐藤佳男様	三万円
奥州市	小野寺瑞夫様	三万円	奥州市	佐藤良一様	三万円
奥州市	小野寺康様	三万円	奥州市	菅原キワ子様	三万円
奥州市	門脇 茂様	三万円	奥州市	菅原貞行様	三万円
奥州市	亀井 真様	三万円	奥州市	菅原正義様	三万円
奥州市	今野鈴子様	三万円	奥州市	菅原実穂代様	三万円
奥州市	齊藤重樹様	三万円	奥州市	鈴木利明様	三万円
奥州市	佐々木一夫様	三万円	奥州市	千葉一治様	三万円
奥州市	佐々木美栄子様	三万円	奥州市	千葉勝弘様	三万円
奥州市	佐々木祐至様	三万円	奥州市	千葉功一様	三万円
奥州市	佐々木良一様	三万円	奥州市	千葉繁美様	三万円
奥州市	佐藤喜一様	三万円	奥州市	千葉貞二様	三万円
奥州市	佐藤只男様	三万円	奥州市	千葉照男様	三万円
奥州市	佐藤常夫様	三万円	奥州市	千葉 長様	三万円
奥州市	佐藤文夫様	三万円	奥州市	林 茂夫様	三万円
奥州市	佐藤正子様	三万円	奥州市	松井リン様	三万円
奥州市	佐藤正人様	三万円	奥州市	眞山幸進様	三万円
奥州市	佐藤宗夫様	三万円	奥州市	三浦 功様	三万円

奥州市	三浦勝志様	三万円	平泉町	岩渕孝子様	三万円
奥州市	三浦賢治様	三万円	平泉町	岩渕照美様	三万円
奥州市	三浦重雄様	三万円	平泉町	岩渕文雄様	三万円
奥州市	三浦 尚様	三万円	平泉町	岩渕光昭様	三万円
奥州市	三浦次男様	三万円	平泉町	及川一男様	三万円
奥州市	三浦 誠様	三万円	平泉町	及川美知子様	三万円
奥州市	山口金四郎様	三万円	平泉町	大山博幸様	三万円
平泉町	旭 源治様	三万円	平泉町	小野寺 至様	三万円
平泉町	阿部一雄様	三万円	平泉町	小野寺榮喜様	三万円
平泉町	阿部フミ様	三万円	平泉町	小野寺和隆様	三万円
平泉町	阿部真郎様	三万円	平泉町	小野寺和代様	三万円
平泉町	石神晃浩様	三万円	平泉町	小野寺勝彦様	三万円
平泉町	石神 忠様	三万円	平泉町	小野寺君吉様	三万円
平泉町	石神 登様	三万円	平泉町	小野寺健次様	三万円
平泉町	石神保巳様	三万円	平泉町	小野寺賢司様	三万円
平泉町	岩渕克美様	三万円	平泉町	小野寺謙治様	三万円
平泉町	岩渕光三郎様	三万円	平泉町	小野寺孝也様	三万円
平泉町	岩渕孝二様	三万円	平泉町	小野寺静枝様	三万円
平泉町	岩渕 智様	三万円	平泉町	小野寺章志様	三万円

平泉町	小野寺宗市様	三万円	平泉町	葛西光男様	三万円
平泉町	小野寺 公様	三万円	平泉町	葛西良治様	三万円
平泉町	小野寺春子様	三万円	平泉町	片平 栄様	三万円
平泉町	小野寺博樹様	三万円	平泉町	片平 俊様	三万円
平泉町	小野寺二千六様	三万円	平泉町	片平節夫様	三万円
平泉町	小野寺正夫様	三万円	平泉町	川坂繁雄様	三万円
平泉町	小野寺マツ子様	三万円	平泉町	川坂ヨシ子様	三万円
平泉町	小野寺 守様	三万円	平泉町	川崎 寛様	三万円
平泉町	小野寺 貢様	三万円	平泉町	川畑芳子様	三万円
平泉町	小野寺 靖様	三万円	平泉町	菊地かの子様	三万円
平泉町	小野寺隆四郎様	三万円	平泉町	小岩昭土様	三万円
平泉町	小野寺義男様	三万円	平泉町	齊藤サトミ様	三万円
平泉町	小山信勝様	三万円	平泉町	坂本 啓様	三万円
平泉町	葛西賢一様	三万円	平泉町	佐々木和信様	三万円
平泉町	葛西 但様	三万円	平泉町	佐々木吉芳様	三万円
平泉町	葛西 享様	三万円	平泉町	佐々木吉郎様	三万円
平泉町	葛西直助様	三万円	平泉町	佐々木恭二様	三万円
平泉町	葛西 博様	三万円	平泉町	佐々木健一様	三万円
平泉町	葛西正義様	三万円	平泉町	佐々木哲雄様	三万円

平泉町	佐々木輝彦様	三万円	平泉町	菅原榮藏様	三万円
平泉町	佐々木徳圓様	三万円	平泉町	菅原惠美子様	三万円
平泉町	佐々木俊行様	三万円	平泉町	菅原幸佐様	三万円
平泉町	佐々木久人様	三万円	平泉町	菅原康生様	三万円
平泉町	佐々木 守様	三万円	平泉町	菅原清治様	三万円
平泉町	佐々木 満様	三万円	平泉町	菅原勇美様	三万円
平泉町	佐々木三七雄様	三万円	平泉町	菅原 剛様	三万円
平泉町	佐々木隆吉様	三万円	平泉町	菅原徳雄様	三万円
平泉町	佐々木隆吉様	三万円	平泉町	菅原 寿様	三万円
平泉町	佐藤千枝子様	三万円	平泉町	菅原 博様	三万円
平泉町	佐藤利夫様	三万円	平泉町	菅原正志様	三万円
平泉町	佐藤智和様	三万円	平泉町	菅原幹成様	三万円
平泉町	佐藤弘之様	三万円	平泉町	菅原 泰様	三万円
平泉町	佐藤正好様	三万円	平泉町	菅原雄策様	三万円
平泉町	佐藤力雄様	三万円	平泉町	鈴木カツ子様	三万円
平泉町	神野民夫様	三万円	平泉町	鈴木四郎様	三万円
平泉町	菅原勇雄様	三万円	平泉町	鈴木義孝様	三万円
平泉町	菅原 勇様	三万円	平泉町	高橋妙子様	三万円
平泉町			平泉町	高橋孝雄様	三万円

平泉町	高橋ヒ口子様	三万円	平泉町	千葉正美様	三万円
平泉町	高橋政男様	三万円	平泉町	千葉睦夫様	三万円
平泉町	高橋由一様	三万円	平泉町	千葉 泰様	三万円
平泉町	高橋幸夫様	三万円	平泉町	千葉泰孝様	三万円
平泉町	瀧澤清祐様	三万円	平泉町	千葉幸和様	三万円
平泉町	千葉明榮様	三万円	平泉町	千葉ヨシ子様	三万円
平泉町	千葉和男様	三万円	平泉町	千葉良二様	三万円
平泉町	千葉 清様	三万円	平泉町	鳥畑耕一様	三万円
平泉町	千葉キワ様	三万円	平泉町	鳥畑 登様	三万円
平泉町	千葉軍一様	三万円	平泉町	鳥畑 裕様	三万円
平泉町	千葉謙吉様	三万円	平泉町	鳥畑正彦様	三万円
平泉町	千葉正一様	三万円	平泉町	鳥畑義一様	三万円
平泉町	千葉政一様	三万円	平泉町	鳥畑良治様	三万円
平泉町	千葉政三様	三万円	平泉町	内藤武義様	三万円
平泉町	千葉隆雄様	三万円	平泉町	内藤はしめ様	三万円
平泉町	千葉 武様	三万円	平泉町	芳賀 昭様	三万円
平泉町	千葉長吉様	三万円	平泉町	畠山昌幸様	三万円
片岡	千葉信夫様	三万円	平泉町	藤原テツ子様	三万円
平泉町	千葉 均様	三万円	平泉町	藤原久雄様	三万円

平泉町	藤原弘義様	三万円	神奈川県	遠藤東子様	三万円
平泉町	朴澤トモコ様	三万円	神奈川県	村上政彦様	三万円
平泉町	松村宗春様	三万円	茨城県	佐藤栄一様	三万円
平泉町	南野秋利様	三万円	埼玉県	内海隆一郎様	三万円
平泉町	村岡今治様	三万円	埼玉県	菅野美代子様	三万円
平泉町	村岡銀三様	三万円	埼玉県	千葉次也様	三万円
平泉町	八重樫 進様	三万円	京都府	三浦励一様	三万円
平泉町	山平幸紀様	三万円	仙台市	佐藤 元様	三万円
平泉町	吉田正夫様	三万円	富谷町	小野寺 勉様	三万円
平泉町	六角忠男様	三万円	平泉町	吉田悦雄様	三万円
平泉町	六角忠義様	三万円			
平泉町	渡辺久男様	三万円			
花巻市	高屋正夫様	三万円	平泉町	伊藤新一様	三万円
八幡平市	及川和雄様	三万円	一関市	玉井邦治様	三万円
金ヶ崎町	菅原啓一様	三万円	平泉町	千葉雄治様	二万円
東京都	小野寺満枝様	三万円	一関市	阿部郁子様	一万円
東京都	鈴木友子様	三万円	平泉町	伊藤ソヨ子様	一万円
東京都	只野順元様	三万円	奥州市	伊藤弘美様	一万円
神奈川県	岩淵靖宏様	三万円	平泉町	岩淵千明様	一万円

職員

一関市	及川 保様	一万円	奥州市	千葉 薫様	一万円
一関市	荻山 操様	一万円	平泉町	千葉公子様	一万円
一関市	加藤美奈様	一万円	一関市	千葉早苗様	一万円
一関市	菊地永久子様	一万円	奥州市	千葉 淳様	一万円
奥州市	菊池義経様	一万円	一関市	千葉春香様	一万円
平泉町	小松代ミキコ様	一万円	一関市	中村美智子様	一万円
一関市	齋藤公恵様	一万円	一関市	蜂谷 勝様	一万円
奥州市	佐々木梨沙様	一万円	奥州市	濱田新治様	一万円
栗原市	佐藤あや様	一万円	平泉町	真籠ミエ子様	一万円
一関市	佐藤修子様	一万円	一関市	松本博美様	一万円
平泉町	佐藤由美子様	一万円	平泉町	三浦輝子様	一万円
一関市	梶目綾子様	一万円	一関市	李 新生様	一万円
一関市	鈴木千春様	一万円			
奥州市	鈴木春喜様	一万円	一山十八ヶ院		二千六百六十万円
奥州市	鈴木まゆみ様	一万円			
奥州市	鈴木まり子様	一万円			
平泉町	鈴木睦子様	一万円			
奥州市	高橋はるみ様	一万円			
奥州市	高橋由紀子様	一万円			

平成二十三年八月末日現在

風信 / 語録

一関市山目字泥田の千葉大樹君（山目中学校三年）、未紗稀さん（山目小六年）、優稀さん（同四年）の三兄弟は、いずれも第二十九回全日本学生選抜書道展（日本書道教育学会主催）で上位に入賞した。特に未紗稀さんは小学生の部で最高賞の文部科学大臣賞を受賞し三人揃っての快挙を喜んでいる。

同展は全国の小中学生を対象とした書道展で、今回は三二八四点の応募があった。入賞作品は四日から六日間、東京都美術館に展示された。

未紗稀さんは今回初めて行書に挑戦し、平泉にゆかりの深い江戸時代の俳人松尾芭蕉の句「五月雨の降り残してや光堂」で小学生最高賞を射止めた。同展では三人の

中で初めての同賞受賞で、「平泉の文化遺産」の素晴らしさを伝えようと選んだ課題だけにとてもうれしい」と喜ぶ。

大樹君は中国の唐代の書家顔真卿の作風を評した言葉「錐畫沙」を課題に選び、学会優秀賞に輝いた。同展では十回連続の上位入賞となり、「高校でも書道を続け、十一回連続受賞に挑戦したい」と意欲的に語った。

優稀さんの出品作は「中尊寺」で、学会奨励賞を受賞。「寺」の字が詰まってしまい、自分ではうまくいかなかったと思っているが、素晴らしい賞を頂けて良かった」と話していた。

兄弟は皆五歳から毎年同展に出品し、三人揃っての上位入賞は通

算三回目。今回は締め切りの二週間ほど前から書き始めたが、その間に大樹君と未紗稀さんがインフルエンザに罹患するなど、苦労を経ての出品だった。

三人の書を指導している祖父の卓二さん（七三）は「わたしから書道を続けてほしいと話したことはないが、みんな立派に活躍してくれてうれしい」と話していた。



岩手日日新聞社HPより 転載許可済み

不滅の法灯の燃料として菜種油を奉納

（平成22年 平泉なのはな会）

まち / ひと

平泉なのはな会の

取り組みについて

中尊寺の不滅の法灯は昭和三十三年、天台宗東北大本山の称号が許された際に比叡山延暦寺から分灯されて以来、中尊寺において大切に守り続けられております。

「延暦寺の不滅の法灯の燃料となる菜種油は、信者からの奉納ですべて賄われているのに、中尊寺の不滅の法灯の燃料は業者から購入されている。いつか町民で菜種を栽培して、不滅の法灯の燃料として奉納するのが私の昔からの夢だった。」高橋一男前町長の話を当時平泉町世界遺産政策監だった藤澤義人さんと一緒に聞き、是非それを実現しよう、と立ち上がった。

たのがこの取り組みのきっかけでした。

町内の焼肉レストラン・ソウル食堂で藤澤政策監、当時農林商工観光課長補佐だった千葉多嘉男さんと一緒に夕食を取りながら、残された大きな課題である「どうやって油を絞るか」ということについて相談をしていました。すると、私たちの横で話を聞いていたご主人から「私の友人が大東で菜種油を絞っています。もし良かったらご紹介しますよ」という、大変にありがたい申し出がありました。それから数週間後、ご主人の案内で藤澤政策監と一緒に大東の工房地あぶらさんを訪れました。私たちの思いをお伝えしたところ、小野寺伸吾社長から「そうい

うことであれば、喜んで協力させていただきます」という嬉しいご回答をいただき、本格的にこの取り組みがスタートしたのでした。

工房地あぶらさんから身体に良い高品質の油が取れる品種の菜種の種を分けていただき、また土壌改良に適した資材等も紹介いただきました。さらに、一緒に種蒔きもしていただくことで話がまとまりました。ただし、搾油を引き受けていただくにあたり、ひとつの厳しい条件が出されました。それは「無農薬・有機肥料で栽培すること」というものでした。というのも、工房地あぶらさんでは菜種栽培農家から委託されて搾油を行っています。その菜種はす

べて無農薬・有機肥料で栽培されており、他の油と品質の異なるものを同じ搾油機械で絞ることはできない、という理由からでした。こうして食用としてもこれ以上ないというほどの最高級の菜種の栽培が本格的にスタートしたのでした。

畑は小岩材木店さんから休耕田をお借りしました。菜種に適したアルカリ性とするための土壌改良材を住田町で買い求め、千葉多嘉男さんと一緒に軽トラックで畑に散布しました。この資材の匂いは強烈で、千葉さんによると、しばらくの間軽トラックからこの匂いが取れずに困ったということでした。そして、約四トンの堆肥を平泉町議会の青木幸保護議長からご提

供いただき、藤澤政策監と、後にはな会の会長となった千葉正吾さんと三人で堆肥散らしの作業を行いました。そして九月末、いよいよ種蒔きの日を迎えました。大東から来ていただいた五人の工房地あぶらの皆さんのご指導により、関宮治良さんほか十五人ほどで無事に種蒔きが終了しました。管理機で除草作業ができるように、種は一定間隔を空けて筋状に撒きました。種蒔きから四、五日後に小さな芽が出揃った時の感動は、今でも忘れられません。

それから約一ヶ月後、平泉地方を集中豪雨が襲いました。菜種は湿気を非常に嫌うという話を聞いて心配していたのですが、翌早朝に行ってみるとまさに不安が的



中、畑は完全に水没していました。もともと水田だった土地を畑にしたために水田の姿を取り戻してしまっただけという訳ですが、千葉会長とともに周りに堰を掘って排水を行い、なんとか事なきを得ました。

阿部慶元さん持参の管理機等を用いて草取り作業を行うなど手入を継続した結果、菜種は順調に成長し、四月下旬には畑は黄色い菜の花が満開となりました。それはまさにこの世の浄土を思わせる、平泉にふさわしい情景でした。お花見を兼ねて第一回の「平泉なのはな会」総会が開催され、千葉正吾さんが会長として正式に選ばれました。

花の見頃を過ぎてしばらくすると、鞘が日に日に膨らんでいきました。そして色も次第に緑から茶色に変わって、収穫の日が近づいているのを感じました。

ある日、すずめよりもひとまわり小柄なカワラヒワという鳥が菜種畑に群がっているのを見つ

した。何度追い払っても、いつの間にか戻ってきて大切な菜種の種を啄み続けます。カワラヒワの襲来は、実は菜種が成熟してすでに収穫の時を迎えたというサインでもありました。一週間後に公民館活動として予定していた子どもたちによる収穫作業を待っていたのでは、今までの皆の努力が水泡に帰してしまいます。そこで急遽、予定を変更して、その翌日に収穫作業が始められました。

菅原正義町長や岩淵毅農林振興課長、小野寺郁夫さん、菅原幸男さんから十五人ほどが集まり、刈り払い機で菜種を刈り倒し、それを集めて束にし、乾燥させるために軽トラックで長島のビニールハウスに運び込みました。その量は想

像を絶するもので、軽トラックにして五十台分は優に越えていたものと思われま

す。一日目と二日目の早朝作業は参加者も多く、作業もはかどったのですが、二日目の日中の猛暑中での作業は千葉会長、高橋禎男さん、八重樫忠郎さんの三人のみとなりました。この三人の奮闘の甲斐あって、二日間で無事収穫作業が終了したのでした。通常は作業後に冷たいビールで喉を潤したいところですが、この日の三人にはその元氣すら残っていないかったという話を後で聞いて、大変に申し訳ないやらありがたいやらで、本当に頭の下がる思いでした。ビニールハウス内で十分に乾燥させた後に、脱穀作業を行いました。

た。ブルーシートの上に菜種の束を置いて実の部分を木の棒で叩くという、極めて原始的な方法で脱穀作業を行いました。沢山の女性参加者や近所の小学生も交えて、みんなで楽しく脱穀作業を行いました。

菜種の茎や葉の下にたまつていた黒い種には鞘や葉がたくさん混じっておりまして。それをふるいや千葉会長宅で保管してあった「唐み」を用いて選別作業を行い、ようやく黒々とした菜種の種が得られたのです。

それから更に一週間ほどビニールハウス内で乾燥させて、いよいよ大東の工房地あぶらさんへ持ち込むことができたのでした。普通の搾油工程では、薬品を使って

黒い皮の部分を溶かしてから油を絞るのだそうですが、工房地あぶらさんの搾油方法はまるで違いまして。菜種を良く焙煎し、その後に機械で単純に圧搾するだけという極めてシンプルな工程で、添加物の全くない、最高級の菜種油が得られたのでした。

そしてついに、昨年九月の中尊寺の彼岸会に合わせて、約七〇リットルの菜種油を奉納することができました。これは中尊寺不滅の法灯の半年分の燃料にあたるのだそうです。奉納後に担当の菅野康純執事が、奉納した油を最も良い状態で燃やすにはどうしたら良いのか、とても熱心に日々研究を続けておられるという話をお聞きして、大変ありがたいことだと感

謝申し上げているところです。

今回の住民の取り組みは、更なる広がりを見せています。国道4号線沿いの飲食店「はなみずき」南には二十年以上も耕作が放棄されて荒れ果てた土地がありまして。世界遺産を目前にこの土地を放置できないと千葉会長が立ち上がり、十三区の住民に声掛けを行って、高橋正さんを始め十五人前後で合計四回の刈り払いを行って、きれいに整備されたのでした。以前であれば、行政と住民が互いに責任をなすり合い、放置し続けられたことでしょう。しかし、実際には個人として参加した役場職員を含めた住民の力で、美しい情景が復活したのでした。ここにいつか菜種を栽培したいというのが

関係者一同の願いです。

中尊寺と町民の絆を結ぶ菜種油の奉納は、これからもずっと続けていきたいと考えております。実際に今年の奉納分にあたる菜種は、朝田茂子さんや遠藤セツ子さんを始め七人ほどの協力によって、岩渕汪さんが管理されている赤堂稲荷様の所有地に昨年九月末に種まきを終えております。小さな菜種は今、雪の下でじつと春の訪れを待っているところです。

事務局長 畠山勝彦

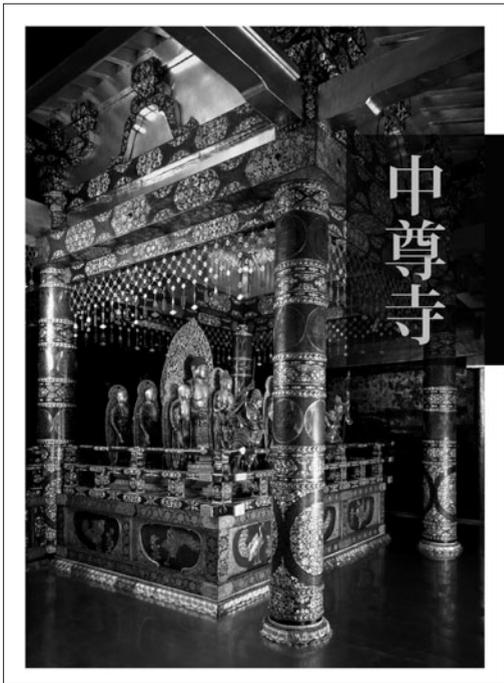


新刊紹介

『中尊寺』

中尊寺には、およそ三〇〇〇点の国宝・重要文化財が収蔵されております。しかしこれらについての図録のようなものはありませんでした。以前からそのようなものが必要と考えておりましたが、ようやく昨年七月に刊行することができました。金色堂をはじめ、仏像・仏具・荘厳具・経巻、あるいは金色堂に納められていた棺および棺内の納置品などを紹介しています。解説も一般の方々にご理解いただけるように、極力専門用語を控えております。

金色堂の紹介のところでは、三つの須弥壇をそれぞれに紹介し、よく見ていただくと、各壇の差異が理解いただけるようにしております。壇上の諸仏も一体ずつ図版を載せていますので、その違いは明瞭になっております。また、修理のなった



中尊寺

「一字金輪仏頂尊坐像」も、保存修理を終えて落ち着いた面容をとりもどして掲載されております。「金銅華鬘」は、三様計六枚あるわけですが、三様それぞれを収録しています。世に名高い「中尊寺経」は、数が多いこともあり、その代表的なものを掲載しています。また、他に例を見ない「金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅」は、全十塔をすべて掲載いたしました。巻末には中尊寺の法会と祭礼、近隣の庭園遺構や遺跡群も紹介させていただきました。

この図録は基本的には視覚的にご理解いただくことを目的としました。みな様には公開している実物をじっくりとご覧いただき、また、本書を参考にしていただければと思います。

取り扱い 中尊寺 一、五〇〇円(税込)

〔関山句囊〕

(平成二十二年六月二十九日 於中尊寺)

〈第四十九回 平泉芭蕉祭全国俳句大会より〉

(席題)

風鐸の歳月を吊り涼をつり

(大会長賞)

*高野ムツオ選

特選 宮城 高橋 桃泉

梅雨に入る願文いまま生きてゐる

(中尊寺賞首賞)

特選 奥州 及川 秀士

光堂より出て来しやサングラス

(毛越寺賞主賞)

特選 一関 桂田 一穂

いにしへのこゑ金色の竹落葉

秀逸 奥州 鈴木 利和

柿の花一色の息してをりぬ

秀逸 宮城 宇津志勇三

旅人と高館にあり沙羅匂ふ

秀逸 花巻 関 園子

金泥の文字ひきしまる夏の月

秀逸 宮城 佐藤 みね

夏木立吾が胸中の水辺まで

秀逸 宮城 関根 かな

風鐸の歳月を吊り涼をつり

(岩手県知事賞)

*菅原多つを選

特選 宮城 高橋 桃泉

中尊寺道の卯の花腐しかな

(河北新報社賞)

特選 盛岡 馬場 吉彦

白菖蒲汚さぬやうに離れ立つ

(平泉観光協会会長賞)

特選 奥州 梅森 サタ

合掌のごと翅たたみ梅雨の蝶

(毛越寺賞)

特選 奥州 高橋 洋子

梅雨晴間寺名番傘並べ干す

秀逸 奥州 佐々木青矢

瑞雲の降り来しごとく花あやめ

秀逸 平泉 旭 光

風あれば音すれちがふ薄衣

秀逸 盛岡 木村 耀子

月見坂登り切ったる風涼し

秀逸 奥州 吉田 貞子

中尊寺坂を横切る羽抜鶏

(岩手県議会議長賞)

*佐治英子選

特選 一関 菅原 良江

風鐸の歳月を吊り涼をつり

(岩手日報社賞)

特選 宮城 高橋 桃泉

今年竹招く闇抜け光堂

(中尊寺賞)

特選 宮城 藤野 尚之

僧正の衣擦れにして夏の廊

秀逸 奥州 菅野 好子

千年の梅雨に沈みし光堂

秀逸 奥州 浅沼 利秋

蹲踞のあふれてをりぬ鴨足草

秀逸 奥州 佐々木秀子

天下ゆるがす密書かも落し文

秀逸 奥州 小野田キヨ

梅雨を来て梅雨をわすれて光堂

秀逸 一関 佐藤 冬扇

句帳もち朝の茅の輪をくぐりけり (平泉町教育長賞)

*工藤節朗選

特選 北上 松田 昭子

六月の法燈に坐す中尊寺

(岩手日報社賞)

特選 奥州 熊谷 勅子

合掌のごと翹たたみ梅雨の蝶

(毛越寺賞)

特選 奥州 高橋 洋子

黒揚羽通りすぎたる能舞台

秀逸 一関 砂金青鳥子

いにしへのこゑ金色の竹落葉

秀逸 奥州 鈴木 利和

清衡の山河を起す青田風

秀逸 一関 佐藤喜佐子

女坂われを呼びとむほととぎす

秀逸 平泉 鈴木多佳子

中尊寺坂を横切る羽抜鶏

秀逸 一関 菅原 良江

梅雨を来て梅雨をわすれて光堂

(平泉文化会議所理事長賞)

*小林輝子選

特選 一関 佐藤 冬扇

白菖蒲汚さぬやうに離れ立つ

(岩手日報社賞)

特選 奥州 梅森 サタ

青梅雨の洗ふ関山幾仏

(岩手日報社賞)

特選 奥州 菅原 モト

完熟の麦尊けれ古戦場

秀逸 奥州 岩淵 正方

国宝のひかり乱せし扇子かな

秀逸 一関 伊勢田あきを

旅人と高館にあり沙羅匂ふ

秀逸 花巻 関 園子

蓮の葉の水玉はよき風に揺れ

秀逸 盛岡 菊池 節子

どくだみの闇に祈りのクルスカな

秀逸 花巻 大平 春子

句帳もち朝の茅の輪をくぐりけり

(平泉観光協会会長賞)

*小菅白藤選

特選 北上 松田 昭子

白菖蒲汚さぬやうに離れ立つ

(河北新報社賞)

特選 奥州 梅森 サタ

観音に扇子持つ手の無かりけり

(岩手日報社賞)

特選 平泉 佐々木邦世

完熟の麦尊けれ古戦場

秀逸 奥州 岩淵 正方

滅多には履かぬ白靴芭蕉祭

秀逸 奥州 及川 梅子

高館や啼かねばならぬ不如帰

秀逸 一関 伊藤 静枝

天下ゆるがす密書かも落し文

秀逸 奥州 小野田キヨ

金泥の文字ひきしまる夏の月

秀逸 宮城 佐藤 みね

(兼題)

沐浴の水子の声や緑夜なり

*高野ムツオ選 (天) 宮城 土見敬志郎

落葉松の芽吹き金色父は亡し

(地) 宮城 永野 シン

緑陰を出ればわが影新たななり

(人) 宮城 日下 節子

闇おりて方の蛙となりにけり

*菅原多つを選 (天) 一関 鈴木道紫葉

束稲山の影を大きく田水張る

(地) 金ヶ崎 松本 雅子

パソコンの立ち上がるまで囁れり

(人) 宮城 佐々木克狼駄

束稲山の影を大きく田水張る

*佐治英子選 (天) 金ヶ崎 松本 雅子

捨畑に花菜明かりの広ごれり

(地) 北上 深澤 洋子

花冷の闇押ししてくる読経かな

(地) 盛岡 荒木那智子

春田鋤く機械のきの字から習ひ

(人) 福島 齋藤 正



選者・講評 高野ムツオ氏

春光の泥ことごとく死者の声

『俳句』5月号

永き日のフェリー乗り場に牛の声

(人) 奥州 伊藤弓流杞

遺跡より土を運びぬ燕の巣

*工藤節朗選 (天) 奥州 梅森 サタ

春の空キリンの首が動き出す

(地) 一関 佐々木徳子

山国の雨脚太し落太し

(人) 茨城 町井 寂石

花びらの螺鈿となりし雨の椅子

*小林輝子選 (天) 北上 鉄本美那子

割箸を綺麗に割って木の芽和

(地) 花巻 高橋 悦子

春愁や鷗の胸の丸きこと

(人) 平泉 神野 富江

八十八夜空を叩けば水零る

*小菅白藤選 (天) 宮城 土見敬志郎

児童生徒

平泉小学校

平泉まもりつづけたはすが咲く

特選 六年 鈴木 瑠璃

笛のねとかけ声共にみこし来る

特選 六年 千葉 彩暉

夏草がによきによきと顔を出す

特選 六年 相坂 詩織

長島小学校

春が来た朝に陽希が生まれたよ

特選 四年 岩淵 隆希

すぶりするぼくのせなかにせみの声

特選 六年 菅原 拓登

くるくるとヒラヒラと舞う桜の舞い

特選 六年 佐々木 翔

平泉中学校

若葉の芽空に向かつて背のびする

特選 一年 鈴木 大翔

梅雨の中プレーボールの声ひびく

特選 三年 阿部 春希

まらきれず春は今かとフライング

特選 三年 今野 練

(平成二十三年六月二十九日 於毛越寺)

〈第五十回 平泉芭蕉祭全国俳句大会より〉

(兼題)

老杉の鼓動涼しき月見坂

特選 奥州 及川 英子

津波跡さくら前線通り過ぐ

特選 秋田 五代儀幹雄

陽炎を鋤き込んで行く土くろし

特選 藤沢 千葉浅沙男

残る鴨夕日くづして漂へり

*小林輝子選

特選 一関 静 枝

まはりつつひかりのせゆく花筏

特選 奥州 大石 文雄

震災の地割れ山より田水引く

特選 奥州 青沼 利秋

田を植ゑて骨寺村のふくらめり

秀逸 奥州 梅森 サタ

西行のさくらはどれか問はれけり

秀逸 奥州 鈴木 利和

囀や金色堂の切手貼る

秀逸 花巻 後藤 冴子

流灯の父は先頭争はず

*小菅白藤選

特選 秋田 坂 一草

リラ冷えやパン種抱き睡らんか

特選 一関 岩沼 幸江

囀や金色堂の切手貼る

特選 花巻 後藤 冴子

牛の餌ゑに草の香まじり夏に入る

秀逸 奥州 梅森 サタ

春耕の母を離れて花摘む子

秀逸 宮城 満吉 正久

白といふ華やぎのあり花辛夷

秀逸 一戸 犬股百合子

遺跡よりひかりを紡ぐ夏つばめ

*工藤節朗選

特選 奥州 梅森 サタ

地震の地に生きねばならぬ更衣

特選 一関 佐藤喜佐子

髪洗ふこの幸せを想ひをり

特選 平泉 岩渕眞理子

万葉のいろに仕上がる蓬餅

秀逸 盛岡 鈴木 睦子

陽炎ひて地蔵の目鼻定まらず

秀逸 一関 佐藤喜佐子

花筏打ち上げられて一握り

秀逸 紫波 三田地節子

夕薄暑切絵となりし金色堂

秀逸 一関 あき お

津波跡さくら前線通り過ぐ

秀逸 秋田 五代儀幹雄

昭和の日天皇の御手ひらひらと

秀逸 一関 静 枝

〔関山歌籠〕

(平成二十二年四月二十九日)

〈第三十一回西行祭短歌大会入選歌〉

*加藤治郎選

はなびらをすくふしぐさであのひとは手紙を
よんでみました 春と (中尊寺貫首賞)

花 卷 多田 愛弓

われら九人かっちやと呼びし母逝けりありが
どうかっちや安らかにかっちや (平泉町長賞)

奥 州 高橋 忠徳

ひっそりと洞に一人の心地覚めエレベーター
は六階に着く (平泉観光協会長賞)

山 田 仲田 良

静かなる病棟の朝明けんとす配膳車の音車椅
子の音 (岩手日報社賞)

盛 岡 加藤 洋子

剃りあとの青き頭の僧の上に降りくるものの
溶けゆかむとす (IBC岩手放送賞)

大 阪 阪本 博子

北に帰る白鳥たちの声の下畑に残る雪に土撒
く (岩手日日新聞社賞)

金ヶ崎 朝倉 賢

〔陸奥教区宗務所報〕

第二部 中尊寺関係

平成二十一年十一月十七日〜平成二十二年十二月十六日

□ 平成二十二年

三月六日 午後一時

陸奥教区人権啓発研修会 於毛越寺

講師 千葉亮賢 師

「民俗としての葬と戒名」

山内より十三名参加

三月六日 午後二時三十分

陸奥教区布教師養成所研修会 於毛越寺

講師 杉田広仁 師

「伝統と改造」

山内より十三名参加

五月十五日 午後一時

陸奥教区布教師会辞令交付式並び総会研修会

講師 今井長新 師

「天台宗布教師に望むこと」

六月七日〜八日 山内より七名参加 於中尊寺

天台宗保護司会民生児童主任児童委員会研修会・

総会

於ホテル日航成田

地藏院 佐々木秀圓

七月三日

天台宗住職研修会 於山形・寶光院

千養寺(地藏院法嗣) 佐々木秀厚

八月二十六日〜二十九日

教師安居会 於居士林

金剛院法嗣 破石晋照

九月十二日 午前十時三十分

陸奥教区法要

明光寺晋山式 唄散華

山内より四名参加

十月三日 午前九時

天台宗一斉托鉢 於興福寺

山内より三名参加

集まった浄財二二二、一四九円は登米市社会

福祉協議会へ

十月四日

人権啓発公開講座

於宗務庁

法泉院 三浦章興

十月三十日

得度式

於中尊寺

地藏院 佐々木圓了

円教院 千葉慧遵

金剛院法嗣 破石晋照

円乘院法嗣 佐々木五大

(同年六月十一日)

天台宗海外伝道事業団理事委嘱

大長寿院 菅原光中

(同年十月二十一日)

中央教師選考会委員任命

大長寿院 菅原光中

(同年十二月十四日)

祖師先徳顕彰大法会企画委員会委員任命

大長寿院 菅原光中

□ 役職任免

(平成二十二年四月一日)

天台宗典編纂所編纂委員任命

円乘院 佐々木邦世

天台宗典編纂所電子仏典員任命

瑠璃光院 菅野康純

天台宗総合研究センター研究員委嘱

真珠院副住職 菅野澄円

陸奥教区布教師

中尊寺 山田俊和

□ 住職任命

(平成二十一年十二月十六日)

願成就院兼務住職 破石澄元

(平成二十二年一月八日)

東福寺兼務住職 北嶺澄照

(同年二月一日)

法泉院住職 三浦章興

□ 教師補任

(平成二十二年一月十八日)

権律師 常住院法嗣 佐々木亮王

(同年四月二十一日)

大僧正 大長寿院 菅原光中

(同年五月三十一日)

権律師 観音院法嗣 清水秀法

□ 僧籍削除

(平成二十二年五月二十八日)

積善院 副住職 佐々木律秀

□ 遷化

(平成二十一年十二月五日)

法泉院 三浦春興 (七十三才)

□ 経歴行階履修

(平成二十二年十月三十日)

得度履修 地藏院法嗣 佐々木圓了

(同年十月九日)

入壇灌頂履修 常住院法嗣 佐々木亮王

(同年十月二十五日)

円頓大戒履修 常住院法嗣 佐々木亮王

□ 逝去

(平成二十一年十二月五日)

地藏院寺婦 佐々木マレ (九十六才)

平成二十二年十二月十七日～平成二十三年八月三十一日

□ 役職任免

(平成二十三年七月二十八日)

陸奥教区地方選挙管理委員会委員

菅野成寛

陸奥教区地方選挙管理委員会予備委員

三浦章興

法泉院 眞珠院副住職 菅野澄円

天台宗総合研究センター研究員委嘱

眞珠院副住職 菅野澄円

□ 平成二十三年

二月五日 午後二時

陸奥教区布教師養成所研修会 於中尊寺

講師 森 謙二 師

「葬送と無縁社会」家族との絆地域との絆

山内(寺婦舎)より二十七名参加

総代・世話人 七名参加

三月二十四日

延暦寺・宗務庁・一隅本部震災見舞い来山

四月二十四日

宗務総長・山田部長・大角部長・矢崎書記

被害調査来山

五月十一日

東日本大震災慰霊法要

於気仙沼観音寺

山内より八名他御詠歌衆参加

〔陸奥教区宗務所新役員〕

平成二十三年十月一日より二十七年九月三十日(任期)

宗務所長

第二部 満福寺 千葉 亮賢

宗務副所長

第二部 大徳院 菅原 光聴

教区議会議員

第一部 實相坊 佐々木了章

第一部 光圓寺 四竈 亮真

第二部 大乘院 藤里 明久

第二部 法泉寺 鎌田 宏毅

第三部 報恩寺 小林 裕道

教区主事

第一部 賢聖院 四竈 亮澄

第二部 千手院 千葉 慶信

第三部 明光寺 米澤 道俊

教区主任

(庶務) 第二部 観音院 清水 広元

(財務) 第二部 円教院 千葉 快俊

(社会) 第二部 瑠璃光院 菅野 康純

(教務) 第二部 葉樹王院 北嶺 澄照

一隅教区本部長

第二部 満福寺 千葉 亮賢

天台宗人権啓発委員会委員委嘱

平成二十六年六月三十日まで

第二部 法泉院 三浦 章興

活動報告

〈平成二十二年〉

菅野 美弥子

私たち中尊寺支部は現在講員数四十一名でその中には詠舞もなさっている講員さんが十一名ほどいて、練習は普段は月二回ほどしています。主な活動は中尊寺の年十七回の法要と臨時の式典などに出席し式衆（僧侶達）の入堂時に三〜四曲退堂時に一曲奉詠し、その間一時間半はお経や声明を聞かせていただきます。正座は辛く冬は寒い本堂ですが都合のつく講員さんが二十人前後出席してください、終了後はお弁当をいただきながら交流の場となります。お施餓鬼には詠唱の他に詠舞の奉納もあります。

近年は高齢化もありお顔の見られなくなった方々もあり寂しいですが若い講員さんも序々に増え心強い思いです。

御神事能番組

平成二十二年五月四日

古実式三番

開口 三浦 章興
 祝詞 千葉 快俊
 若女 菅野 澄円
 老女 菅原 光聰

ツレ・天女 佐々木五大
 後シテ 佐々木邦世
 前シテ 北嶺 澄照

能 竹生鳥
 ワキ 菅野 成寛
 ツレ 菅原 光聰
 間 破石 澄元

古実式三番
 開口 三浦 章興
 後見 菅野 宏紹

狂言 仏師
 シテ 菅野 晋照
 アド 田舎人 破石

能 羽衣
 シテ 佐々木五大
 ワキ 佐々木秀厚
 ツレ 佐々木律秀

二年に一度東日本大会があり、各地のチームが猛練習をして参加しており、我々も優勝や優秀賞などをいただいています。その際にも本堂の法要への参加が大きな力になっていると思います。

御詠歌というとお葬式のものと思っていられる方も多いようですがほとんどが仏様や御大師様達を讃える曲やその教えについての曲で落慶式や結婚式などおめでたい曲など八十曲あまりもあります。

平成二十三年の十月には沖繩大会もあり全国の各本部の発表や各県の戦没者の慰霊碑の前での奉詠などが予定されています。遠方の事でもあり参加者もまだ十分ではありません。一般の方も募集しています。多くの方のご参加をお待ちしています。

そして中尊寺で御詠歌をやってみたい方大歓迎です。よろしくお願ひします。

合掌
(幹事)

秋の藤原まつり 中尊寺能 十一月三日

仕舞 一関喜桜会

白髭 白石 恵一
 岩舟 岩淵 慶子
 吉野静 佐藤 佳子
 鶉之段 小島喜久子

狂言 清水
 シテ 菅野 澄元
 アド 太郎冠者 破石 晋照

能 狸々
 シテ 佐々木五大
 ワキ 佐々木秀厚
 大鼓 三浦 章興
 小鼓 佐々木長生
 小鼓 菅原 光聰
 笛 清水 広元

平成二十三年五月四日
 古実式三番

開口 三浦 章興
 祝詞 千葉 快俊
 若女 菅野 澄円
 老女 菅原 光聰

大鼓 破石 晋照
 小鼓 佐々木秀厚
 小鼓 佐々木五大
 後見 菅野 宏紹

御奉納者 御芳名

一 菜種油 四斗

平泉町 平泉なのはな会様

一 柿経(阿弥陀経) 一面

西東京市 高橋常雄様

浄財御奉納者 御芳名

平成二十一年十二月〜平成二十二年十一月

一関信用金庫平泉支店様

六万円

岩間智子様

五万円

東雲寺様

五万円

海峰 守様

六万円

関口一雄様

二十万円

(有)平泉観光写真社様

五十万円

山田泰枝様

五万円

立正佼成会盛岡教会様

三万円

立正佼成会花巻教会様

三万円

念法真教総本山金剛寺様
實光院様

十五万円
五万円

(株)鶴屋百貨店様

五万円

観音寺様

二十三万円

蓮華寺様

三万円

宝徳寺様

三万円

天台宗東前橋部様

三万円

和堂先生を偲ぶ会様

五万円

観音寺 千田孝明様

十万円

立正佼成会土浦教会様

三万円

本増寺様

五万円

東北芸術工科大学様

三万円

富岡八幡宮神輿総代連合会

三万円

富岡八幡宮神輿総代連合会

五万円

松本洋子様

三万円

吉武秀起様

十万円

一関信用金庫理事長 小野寺勝宏様

三十万円

(株)エコノ・テレステーション 太田浩一郎様

十万円

雛座ぶらんにんぐ 高橋旭盛様

五万円

不動尊篤信御奉納者 御芳名

平成二十一年十二月〜平成二十二年十一月

富良野市

(株)南運輸 南 和夫様

三万五千元

野村農園 野村 隆様

季每御供物

小樽市 村口初男様

季每御供物

平川市 笠原不動院代表
小笠原喜世様

三十三万七千五百円

弘前市 笹 隆治・哲子様

季每御供物

青森県 南部町 工銀青果 工藤一男様

季每御供物

秋田市 木村英夫様

五万六千元

大崎市 ベル美容室 高橋紀美世様

季每御供物

(有)西村塗装 森元末美様
森元洋子様

三万円

大館市 加賀谷正子様

季每御供物

仙北市 熊谷 剛様

三万円

天童市 (有)弘進商会 那須 弘様

三万円

二戸市 (有)岩食商事 米沢 励様

季每御供物

盛岡市 野口芳子様

三万三千元

奥州市 佐々木久様

三万円

石川功子様

三万円

一関市 割烹ろばた一八 渋谷正幸様

三万円

浄財募金

ハイチ地震緊急募金

(財)日本ユニセフ協会へ

二〇七、八九七円

チリ地震緊急募金

(財)日本ユニセフ協会へ

二三五、九三〇円

一隅を照らす運動総本部へ

五三、三八二円

ニュージールランド地震緊急募金

日本赤十字社へ

五一、九八四円

台風十二号緊急募金

和歌山県災害対策本部へ

一八五、五三〇円

奈良県災害対策本部へ

一八五、五三〇円

三重県災害対策本部へ

一八五、五二九円

かわさきファミリークリニック 千田貴之様	三万円	福島市	笹山まり子様	季每御供物 一万八千円
(株)東北鉄興社様	三万円	南相馬市	中島利枝子様	三万五千元
山平様	三万円	新潟市	松原晴樹様	季每御供物 献酒・一万円
(株)精茶百年本舗 清水恒輝様	三万円 穀宝米千五百個	水戸市	藤枝恵枝子様	季每御供物 六万五千元
(有)豊隆軌道 千葉昭一様	五万円 献酒	中野区	中村武司様	三万円
岩渕浩子様	季每御供物 四万五千元	渋谷区	(株)ショウワンスポーツ様	六万円
一関二高昭和四十四年度卒業生様	十万五千元	和泉市	辻林正博様	御供物
藤原敬一郎様	三万二千元	和歌山市	(有)亀井産業 亀井誠一様	五万円
一関信用金庫平泉支店様	十四万五千元			
平泉中学校昭和三十九年度卒業生様	五万円			
長島中学校昭和三十九年度卒業生様	四万円			
仙台市	季每御供物 献酒	富良野市	南砂利工業(株)	三万五千元
池田恵美子様	季每御供物	青森県	工銀青果 工藤一男様	季每御供物
小島ヒデ子様	季每御供物	南部町	笠原不動院代表	三十二万九千九百元
仙台市	三万円	平川市	小笠原喜世様	御供物
加藤義輝様	三万円	弘前市	笹 隆治・哲子様	季每御供物
栗原市	三万円	横手市	赤川優良様	三万五千元 御供物
気仙沼市	三万円	大仙市	(有)ベル美容室 高橋紀美世様	三万円 御献酒
石巻市	三万五千元	潟上市	安藤 匠様	三万円
宮城県 富谷町	三万五千元			
宮城県 南三陸町	三万円			

平成二十二年十一月〜平成二十三年八月

秋田市	三万円	南相馬市	中島利枝子様	三万円
木村英夫様		水戸市	藤枝恵枝子様	季每御供物
二戸市	季每御供物	新潟市	松原晴樹様	季每御供物
(有)岩食商事 米沢 励様		中野区	中村武司様	七万五千元
奥州市	三万円	和泉市	辻林正博様	五万円
佐々木 久様				
石川功子様	三万円			
平泉中学校昭和六十年卒業生様	八万四千元			
平泉中学校卒二・五・六会様	五万円			
千葉製材所 千葉芳美様	三万円			
一関信用金庫平泉支店様	三万円			
一関信用金庫互助会様	五万円			
割烹炉ばた一八 渋谷正幸様	三万円			
(株)東北鉄興社様	三万円			
山平様	三万円			
(株)精茶百年本舗 清水恒輝様	三万円 五穀米			
(有)豊隆軌道 千葉幸八様	五万五千元 献酒			
川嶋印刷(株) 菊地慶矩様	十万円			
山口 昇様	四万円			
宮城県 南三陸町	四万円			
宮城県 富谷町	三万円			
仙台市	季每御供物			
小島ヒデ子様	三万円			
須賀川市	十万円			
須賀川市東公民館成人講座様	十万円			

東日本大震災御支援者 御芳名

滋賀県	天台宗本山仏青様	二百二十四万五千元
東京都	西光寺様	百万円 支援物資
英国	S.J.Philips Ltd.様	六十七万六千二百一十円
韓国	Eura Eunkyung Hahn様	五十万円
群馬県	常住寺様	三十万円
東京都	正法院様	三十万円
東京都	最勝寺壇信徒一同様	二十万円 支援物資
東京都	江東寺様	十三万円
京都府	實光院様	十万円
東京都	京戸富栄様	十万円

東京都	浅草寺様	十万円
東京都	（株）小西美術工芸社様	十万円
奈良県	相慈寺様	十万円
兵庫県	實相寺様	十万円
兵庫県	能福寺様	十万円
宮城県	松井建設株式会社東北支店様	十万円
千葉県	吉田清子様	五万円
東京都	宇治紫文様	五万円
神奈川県	大聖院様	三万円
岐阜県	（宗）大師講様	三万円
京都府	株式会社秋江様	三万円
京都府	森忠法衣店様	三万円
滋賀県	天台宗災害対策本部様	三万円
東京都	浄光寺様	三万円
東京都	杉谷義純様	三万円
東京都	正観寺様	三万円
東京都	東光院様	三万円
東京都	久田和子様	三万円
愛知県	天台宗 一隅を照らす運動一乗院支部	二万四千五十八円

千葉県	田島康雄様	二万円
一関市	橋場土木様	支援物資
宮城県	大成建設（株）東北支店様	支援物資
茨城県	天台宗茨城教区様	支援物資
茨城県	養福寺様	支援物資
埼玉県	藤井智之様	支援物資
千葉県	清光寺様	支援物資
東京都	圓融寺様	支援物資
東京都	株式会社翠雲堂様	支援物資
東京都	成就寺様	支援物資
東京都	セコム様	支援物資
東京都	長命寺様	支援物資
東京都	日本カバディ協会様	支援物資
山梨県	東円寺様	支援物資
滋賀県	榎本様	支援物資
滋賀県	金蔵院様	支援物資
京都府	芝金聲堂様	支援物資
大阪府	（株）保安サプライ様	支援物資
岡山県	天台宗岡山教区様	支援物資

香川県	妙法寺様	支援物資
沖縄県	仲宗根典子様	支援物資

（順不同）

皆様より頂きました多くのご支援は中尊寺の被災地支援活動に充てさせていただきました。（本文三十二ページ参照）

ここに深く感謝申し上げます。

赤堂稲荷大鳥居再建

永年の風雪により平成二十二年九月二十一日に倒壊していた赤堂稲荷（中尊寺金色院別当）の大鳥居が再建された。本年九月十九日、赤堂法要に引き続いて開眼法要が営まれた。

総高六・七メートル／柱間四・五メートル
鋼鉄製



執務日誌抄

平成二十一年十二月一日

二十三年八月三十一日

平成二十一年

◇十二月

- 一日 月次大般若(本堂)
つぎな
- 諸尊法修正会伝授(本堂)
- 五日 山内地蔵院佐々木マレ様逝去
山内法泉院住職三浦春興師
遷化



- 六日 修正会 釈迦供・月山供(釈迦堂)
- 七日 修正会 白山十二面供(本堂)
大般若会(本堂)
修正会 弥陀供(金色堂)
- 八日 修正会 薬師供(旧開伽堂薬師
讃衡蔵)
一字金輪仏・千手観音法楽
修正会結願
十三時半 恒例「金盃披露」
- 十四日 慈覚会 御影供(本堂)
お経を読む会(貫首)
立正佼成会盛岡教会長村山禎英
氏来山(貫首 応接)
- 二十四日 一関・平泉地域エジプト・
ルクソール友好協会役員会
(貫首 於ペリーノH一関)
- 二十六日 念法真教教務総長・金剛寺執
事長桶屋良祐氏他来山(貫首
応接)
- 二十七日 平泉観光協会理事会(執事長
於観光協会)

- 七日 薬師会 讃衡蔵
- 十日 地蔵院佐々木マレ様葬儀
(本堂)
- 十一日 法泉院春興師葬儀(本堂)
- 十二日 駐日エジプト・アラブ共和国特命
全權大使ワリード・マハムー
ド・アブデルナーセル氏歓迎
レセプション・夕食会(貫首)
十三日 一関・平泉地域エジプト・
ルクソール友好協会設立総
会(貫首 於一関あいぽーと)
- 北上川RCA・エジプト連
携交流フォーラム(貫首 於
ペリーノH一関)
- 十四日 弥陀会(本堂)
- 秋期一山会議(大広間)
- 十七日 白山会(本堂)
- 十九日 骨寺村莊園米奉納(経蔵)
- 中尊寺節分会総会
お経を読む会(真珠院)
- 二十四日 文殊会(経蔵)
- 二十八日 恒例御供餅つき

- ◇二月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 二日 平泉観光協会長小野寺邦夫氏
来山(貫首 応接)
- 三日 恒例大節分会(関取高見盛招く。
歳男歳女八十六名、町内園児)
- 九日 平泉町世界遺産推進基金運
営委員会(執事長 於役場)
- 十四日 涅槃会御逮夜(本堂)
- 十五日 涅槃会(本堂)
- 本堂御本尊造立委員会
お経を読む会(大長寿院)
- 十八日 声明研修(十九日、唄伝授
講師 兵庫実相寺齋川文泰師 大
広間)
- 二十二日 平泉町世界遺産地域協議会
(執事長 於保健C)
- 二十六日 文化庁三谷卓也氏他 来山
(貫首・執事長)
- ◇三月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 八日 園城寺第百六十二代長吏大僧正福

三十一日 午後三時 一山総礼

平成二十二年

◇一月

- 一日 ○時 新年祈祷護摩供修行
七時 東山町(若水送り)着
九時半 正月祈祷護摩(本堂)
十時半 総礼
- 修正会 釈迦供(本堂)
堂籠り(五日 結衆、開山堂)
- 二日 九時半 正月祈祷護摩(本堂)
修正会 薬師供(峯薬師、讃衡蔵)
十四時 誦初め(大広間)
- 三日 九時半 正月祈祷護摩(本堂)
修正会 山王供(山王堂)
- 十二時 元三会 慈恵供(本堂)
- 四日 修正会 薬師供(瑠璃光院薬師堂)
- 五日 修正会 文殊供(経蔵)
大般若会(利生院弁財天堂)
梵焼供(結衆勤、開山堂)
寒修行(行者五名、小寒(節分))

- 十日 家俊明師本葬(貫首 於園城寺)
山内真珠院副住職澄円氏結
婚式(本堂)
- 十四日 在日クオアチア共和国特命全權大
使ドラゴ・シユタンブグ氏
来山(執事長)
- 十六日 春期一山会議(大広間)
- 十九日 基衡公御月忌(胎曼供 本堂)
お経を読む会(積善院)
- 二十日 春彼岸会法要(法華三昧 本堂)
総代・世話人会総会(執事長・
法務他 於平泉レスト)
- 二十三日 三千院門生小堀光詮大僧正米
寿・出版記念祝賀会(貫首
於グランドプリンスH京都)
- 二十四日 開山会護摩供(開山堂)
- 二十五日 平泉町観光審議会(執事長
於役場)
- 二十六日 源義経公東下り行列保存会
総会(総務)
- 三十日 平泉観光協会理事会(執事長
於観光協会)

◇四月

- 一日 月次大般若(本堂)
- 四日 前貫首 散華心院大僧正孝信大和尚一周忌(中尊寺本堂)
- 八日 仏生会(本堂)
お経を読む会(金剛院)
- 九日 散華心院大僧正孝信大和尚一周忌 貫首 於日光観音寺
- 十日 貫首他エジプト訪問(十七日恒例花まつり子ども大会)
- 十一日 群馬教区蓮華寺様他団参
- 十二日 トルコ共和国自然災害対策視察団来山(執事長挨拶・晋照案内)
- 十四日 菊まつり協賛会総会
- 十七日 陸奥教区寺院婦人会総会(所長・総務 大広間)
- 二十日 臨時一山会議(天広間)
- 二十二日 桜友会清掃奉仕(於北坂) 駐日大韓民国特命全權大使権哲賢氏来山
- 二十二日 平泉町世界遺産推進協議会



- 十二日 世界遺産登録祈願金色堂参拝
- 十三日 法華経一日頓写経会(本堂)
お経を読む会(貫首)
- 十四日 日光観音寺上鉢石町内会様来山(貫首)
- 十五日 ウェーサカ式典(宏紹・総代世話人 於一関瑞川寺)
- 二十日 自在房蓮光忌法要(本堂)
- 二十二日 本堂御本尊丈六釈迦像製作視察(二十二日、執事長・秀圓・光中・邦世・澄元 於京都)
- 二十七日 貫首、法話(立正佼成会土浦教会様 本堂)

総会 執事長 於役場

- 二十三日 柳之御所史跡公園 開園式(総務広元)
- 二十九日 第三十一回 西行祭短歌大会(講師加藤治郎氏「西行と現代」)
- ◇五月
- 一日 春の藤原まつり開幕
藤原四代公追善法要、稚児行列
郷土芸能奉演(胆沢 朴ノ木沢 念仏剣舞/達谷窟毘沙門神楽)
- 二日 開山護摩供(開山堂)
郷土芸能奉演(江刺 行山流角 懸鹿踊/一関 市野々神楽)
- 三日 源義経公東下り行列(義経公役 俳優内田朝陽)
郷土芸能奉演(衣川 川西念仏剣舞)
- 四日 古実式三番
能「竹生鳥」
郷土芸能奉演(胆沢 行山流都 鳥鹿踊/平泉中学校 達谷窟毘沙門神楽)

- 二十九日 第四十九回平泉芭蕉祭全国俳句大会(選者・講師 高野ムツオ氏「十七音の時空」)
- ◇七月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 二日 山形東善院様団参
- 四日 献笛 雲龍氏(本堂)
- 六日 平泉観光協会理事会(執事長)
- 九日 日蓮宗本増寺様団参
- 十一日 如法写経十種供養会(頓写経奉納式)
- 十七日 中国天台県人民政府農業視察団一行来山
- 清衡公御月忌(胎曼供 本堂)
- 富岡八幡宮神輿総代連合会様来山
- 十八日 平泉総社神輿渡御
- 二十日 JTBコンサート(本堂)
- 二十四日 五郎沼・古代蓮まつり(参与 光中 於紫波町南)
- 三十一日 貫首 講話(参与光中同行 於多聞院伊澤家)

門神楽

- 五日 古実式三番「開口」
能「羽衣」
- 六日 山王講(山王堂)
- 十六日 お経を読む会(円乗院)
- 十七日 群馬教区東前橋教部様団参(参与邦世案内)
- 二十日 (株)平泉観光協会通常総会(総務 於商工会館)
- 二十二日 平泉商工会青年部通常総会(総務 於商工会館)
- 二十三日 中尊寺杯ソフトテニス大会(於平泉町営テニスコート)
- 二十五日 平泉商工会通常総会(執事長 於商工会館)
- 二十六日 平泉観光推進実行委員会総会(執事長 於役場)
- 三十日 中尊寺杯ゲートボール大会(於平泉町ゲートボール場)
- ◇六月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 四日 伝教会 御影供(本堂)

- ◇八月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 二日 桜友会清掃奉仕
宮城一部永清寺様団参
- 念法真教立教八十五周年報恩大法要(貫首・随行五大 於金剛寺)
- 四日 十五時半「平和の鐘」打鐘
- 六日 平泉町世界遺産地域協議会(執事長 於役場)
- 七日 夏安居(十一日、結衆、開山堂)
- 第十四日 第三十四回中尊寺新能
能「六浦」
能「附子」
能「龍虎」
- 十五日 ユネスコ「寺子屋運動」(募金活動・平和の鐘打鐘)
- 十六日 第四十六回平泉大文字まつり
- 十八日 文化庁本中眞調査官来山(執事長)
- 二十日 戸津説法聴聞(二十二日、貫首)
- 二十三日 施餓鬼会御速夜(本堂)

- 二十四日 **大施餓鬼会・放生会**(本堂)
お経を読む会(貫首)
- 二十七日 貫首 講話(二関信用金庫様 於ペリーノ日一関)
- 二十九日 蜂神社例大祭(参与光中 於蜂神社)
- 三十一日 龍王寺施餓鬼会(成寛)
- ◇九月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 二日 瀬見亀割観音祭礼(広元出向)
- 二日 中国大連書記一行来山(執事 長案内)
- 三日 泰衡公御月忌(金曼供 本堂)
- 九日 イコモス現地調査
中国・王力軍氏来山(貫首挨拶)
- 十日 貫首、大館錦神社・西木戸神社参拝(秀厚・晋照・五大同行)
- 十一日 五郎沼薬師神社例大祭(法務 康純 於紫波町)
- 十七日 白符忌(本堂)
- 十九日 赤堂稲荷例祭(護摩供)
- 二十日 山内法泉院住職章興氏結婚

- 二十三日 式(本堂)
秋彼岸会法要(本堂)
- 二十六日 お経を読む会(釈尊院)
茨城教区西福寺様団参(参与秀圓案内)
- ◇十月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 二日 慈眼会(本堂)
- 五日 浄土宗西應寺様団参(快俊案内)
- 七日 平泉観光協会理事会(執事長 於観光協会)
- 十日 高知県知事尾崎正直氏・岩手県知事達増拓也氏来山(執事長)
- 十七日 高知県知事尾崎正直氏・岩手県知事達増拓也氏来山(執事長)
- お経を読む会(常住ノ長生)
- 二十日 菊まつり開關法要
- 二十二日 天台宗ニューヨーク別院五周年記念法要(〜二十七日、貫首、於ポストン・ニューヨーク)
- 二十八日 秀衡公御月忌(金曼供 本堂)
埼玉教区吉祥寺様五十三名 団参(秀厚案内)
- 三十日 地藏院後住・円教院法嗣得

- ◇十一月 度式
- 一日 秋の藤原まつり開幕
藤原四代公追善法要、稚児行列
郷土芸能奉演(江刺 行山流角 懸麗羅)
- 二日 菊供養会(本堂)
お経を読む会(貫首)
- 三日 郷土芸能奉演(関 市野々神楽)
- 三日 中尊寺能「狸々」、狂言「清水」、謡・仕舞(二関・平泉喜桜会奉納 能舞台)
- 郷土芸能奉演(胆沢 行山流都 鳥鹿羅ノ衣川 川西念佛剣舞)
- 四日 日光観音寺観音講様四十名 団参
奥の細道サミット(〜五日、参与邦世 於松島町)
- 八日 神奈川教区様二百八十名 団参(貫首法話)
- 十日 写経奉納式(本堂)

- 十一日 貫首、講話(岩手県広告業協会 様 盛岡)
- 十二日 アメリカ国務省日本語研究所より十二名来山(執事長挨拶)
- 十三日 貫首、講話(江戸川高校開校七十周年記念講演)
- 十四日 菊まつり表彰式(大広間)
山内釈迦堂落慶法要
- 十七日 貫首 講話(県経済同友会)
- 二十二日 大正大学学長多田孝文師来山
(大正大学創立九十周年に関する説明会 広間)
- 二十三日 天台会御速夜(結衆勤 本堂)
- 二十四日 天台会(御影供 本堂)
- ◇十二月
- 一日 月次大般若(本堂)
- 三日 中尊寺経絵調査(第一回、〜五日、東北大学泉武夫教授、管財執事澄元立会い)
- 秋季一山会議(大広間)
山内地蔵院法事
立正佼成雅楽部六十周年年式

- 七日 典(貫首 東京)
薬師会(讚衡蔵)
- 八日 故大久保良順師本葬(貫首 於谷中天王寺)
- 十四日 弥陀会(本堂)
- 十七日 白山会(本堂)
- 十八日 中尊寺節分講中総会
- 十九日 骨寺村莊園米奉納(経蔵)
お経を読む会(瑠璃光院)
- 二十四日 文殊会(経蔵)
- 二十八日 恒例御供餅つき
- 三十一日 午後三時 一山総礼
- 平成二十三年
- ◇一月
- 一日 ○時 新年祈祷護摩供修行
七時 東山町(若水送り)着
九時半 正月祈祷護摩(本堂)
十時半 総礼
修正会 釈迦供(本堂)
堂籠り(〜五日 結衆、開山堂)

- 二日 九時半 正月祈祷護摩(本堂)
修正会 薬師供(峯薬師、讚衡蔵)
- 三日 九時半 正月祈祷護摩供(本堂)
修正会 山王供(山王堂)
- 四日 十一時 元三会 慈恵供(本堂)
修正会 薬師供(瑠璃光院薬師堂)
- 四日 修正会 岩手県知事達増拓也氏本堂参拝
- 五日 修正会 文殊供(経蔵)
大般若会(利生院弁財天堂)
- 梵焼供(結衆勤、開山堂)
- 寒修行(行者4名、小寒ノ節分)
- 六日 修正会 釈迦供・月山供(釈迦堂)
- 七日 修正会 白山十一面供(本堂)
大般若会(本堂)
- 修正会 弥陀供(金色堂)
- 八日 修正会 薬師供(讚衡蔵)
一字金輪仏・千手観音法楽
修正会結願
十三時半 恒例「金盃抜き」
- 十四日 慈覚会(御影供 本堂)
お経を読む会(貫首)

二十三日 文化財防火訓練

一関・平泉地域エジプト・ルクソール友好協会役員会
(貫首 於ペリーノH一関)

二十七日 本堂丈六釈迦像製作状況視察(二十八日、委員 秀圓・光中・邦世・澄元・広元)

二十八日 念法真教様来山(執事長)

文化庁長官近藤誠一氏来山(執事長)



二十九日 文化庁長官近藤誠一氏特別講演(執事長 於一関蔵日)

◇四月

一日 月次大般若(本堂)

七日 午後十一時三十二分、宮城県沖地震(マグニチュード七・四、平泉町震度六弱)

八日 仏生会(本堂)

お経を読む会(利生院)

十一日 前貫首千田孝信大僧正三回忌(本堂)

東日本大震災物故者追善回向月命日法要(本堂)

十四日 阿純孝師来山

十五日 世界宗教者平和会議日本委員会様来山

平泉町世界遺産推進協議会役員会(執事長 於役場)

二十一日 大正大学学長多田孝文師来山(貫首)

二十三日 大正大学学長多田孝文師・ポランティア一行来山(貫首)

二十六日 桜友会清掃奉仕(管財章興 北坂「平泉古事の森」育成協議会)

三十日 本堂御本尊造立委員会

◇二月 月次大般若(本堂)

三日 恒例大節分会(関取高見盛招く。歳男歳女七十七名、町内園児)



八日 国土交通省観光地域振興部長田端浩氏・岩手県副知事上野善晴氏来山(執事長案内)

十四日 涅槃会御速夜(本堂)

十五日 涅槃会(本堂)

二十七日 平泉観光協合理事会(執事長)

サングラトナ・法天・マナケ師来山(貫首応接)

二十八日 東日本大震災四十九日忌(本堂)

東日本大震災陸前高田回向(於陸前高田市)

二十九日 西行法師追善法要(本堂)

◇五月 藤原四代公追善法要

二日 開山護摩供(開山堂)

三日 郷土芸能奉演(衣川 川西剣舞)

六日 山王供(山王堂)

十一日 天台座主御親修

東日本大震災犠牲者慰霊法要(於気仙沼観音寺)

東日本大震災物故者追善回向月命日法要(本堂)

十二日 平泉町世界遺産地域協議会(執事長 於役場)

十五日 お経を読む会(地蔵院後住秀厚)

お経を読む会(葉樹王院)

中尊寺経絵調査(第二回、十七日、泉武夫教授、立会い澄元)

二十四日 (仮称)檀信徒会館建設委員会 貫首 講演(於ひがしやま観光日)

◇三月 月次大般若(本堂)

三日 檀信徒会館建設委員会

八日 菊まつり協賛会役員会(広間)

十一日 午後二時四十六分、東日本大震災(マグニチュード九・〇、平泉町震度五強)

十五日 天台宗務総長「阿純孝」師来山

十七日 平泉観光協会緊急理事会(執事長出席)

十九日 基衡公御月忌(胎曼供 本堂)

二十二日 彼岸会法要(法華三昧 金色院)

二十四日 開山会(護摩供 開山堂)

三十日 春期一山会議

十七日 東儀秀樹氏奉納演奏(本堂)



二十日 一関地区交通安全協合理事会(執事長 於ペリーノH)

二十二日 陸奥仏教青年会総会(大広間)

二十四日 平泉観光協合理事会(執事長)

二十五日 平泉商工会通常総会(執事長 於役場)

群馬県下仁田常住寺(故園実中師)弔問(貫首)

平泉観光協会通常総会(執事長 於平泉文化遺産C)

二十六日 県庁教育委員会訪問(執事長)

三十日 平泉観光推進実行委員会総会(代理総務広元 於役場)

◇六月

一日 月次大般若(本堂)

- 二日 一山協議会(広間)
- 三日 芭蕉顕彰会様来山
- 四日 伝教会(御影供 本堂)
- 五日 観光庁長官溝畑宏氏来山(邦世)
- 十一日 東日本大震災物故者追善回向月命日法要(百箇日忌 本堂)
- 十二日 **法華経一日頓写経会**(本堂)
お経を読む会(貫首)
「ふるさと平泉会」第十九回
総会並びに懇親会(総務広元
於浅草ビューヒ)
- 十三日 四寺廻廊法要(松島)
- 十九日 下仁田常住寺園実丞師様来山(貫首)
- 二十日 自在坊蓮光忌法要(本堂)
- 二十一日 嵐山光三郎氏・大正大学事務局長柏木正博氏来山(貫首)
- 二十二日 武田双雲氏来山
- 二十六日 **平泉町世界遺産登録記者会**
見(貫首・執事長・広元)
- 二十九日 ウエーサカ式典(法務 於花泉
徳寿院)
- 十九日 本堂丈六釈迦像製作状況視察(執事長、委員 邦世・澄元 於
亀岡)
- 二十三日 五郎沼古代蓮まつり(参与光
中・章興 於紫波町五郎沼)
- 二十四日 平泉写真同好会結成十周年記念事業「世界遺産登録記念写真展」開会式(総務広元 於平泉文化遺産C)
- 二十六日 ウィーンフィルチャリティコンサート(本堂)
- 二十九日 桜友会清掃奉仕(管財章興 開山堂他)
- 三十日 貫首法話(青空法話 参与光中
同行 於多聞院伊澤家)
- 三十一日 聞名寺「風の盆」講中
越中おわら節奉演(本堂)

- ◇八月
- 一日 月次大般若(本堂)
愛知県知事大村秀章氏来山(執事長)
- 一山協議会(広間)

- 駐日米国大使ジョン・V・ルー
ス氏来山(執事長挨拶)
- 日本外国特派員協会記者会
見(岩手県知事・貫首)
- 文部科学大臣高木義明氏一行
来山(執事長案内)
- ◇七月
- 一日 月次大般若(本堂)
一山協議会(広間)
- 三日 宮古黒森神楽奉演
**平泉世界遺産登録記念・東
北復興祈願金色堂参拝**(本堂
金色堂)
- 四日 十五時半 〈平和の鐘〉打鐘
- 七日 **夏安居**(十一日、結衆、開山堂)
- 十日 明治神宮宮司中島精太郎氏来山(貫首)
- 十一日 東日本大震災物故者追善回向月命日法要(本堂)
東儀秀樹氏奉演(能舞台)
- 十六日 第四十七回**平泉大文字送り火**
- 十八日 宗務総長阿純孝師・法人部長・財務部長他来山
一山協議会(広間)
- 二十三日 施餓鬼会御逮夜(本堂)
- 二十四日 **大施餓鬼会・放生会**(本堂)
お経を読む会(貫首)
- 二十八日 蜂神社例大祭並びに東日本
大震災復興祈願祭(参与光中
於紫波町蜂神社)



- 七日 本山覚超執行他四名来山(執事長)
- 九日 貫首講演(北上川RCAセミ
ナー 於ペリーノヒ)
- 十日 **如法写経十種供養会**(頓写法
華経奉納式)
お経を読む会(貫首)
- 十一日 東日本大震災物故者追善回向月命日法要(本堂)
- 十四日 ユネスコ文化担当事務局長補ワラ
ンチエスコ・バンダリン氏
来山
- 十五日 平泉観光協会理事会(執事長)
- 十七日 **清衡公御月忌**(胎曼供 本堂)



▽ 「未曾有」この言葉をこれほどまでに見聞きしたことがあったらどうか、未曾有の災害が起こり、停電の夜闇の中でラジオから未曾有の被害を聴き、未曾有の恐怖を感じたことを今でも覚えている。一日も早い復興のため、我々も未曾有の支援をしなければならぬと思う。

▽ 寺報完成間近の三月に震災に遭い、今年度の前半を被災地での復興活動に充てさせていただき、半年以上遅れての今号の『関山』となってしまった。予定していた紙面に、さらに『震災・復興』、『世界遺産登録』をテーマとした文章を寄稿していただき、またドナルド・キーン氏のメッセージも収めさせていただいた。忘れられない年の、忘れられない『関山』となった。

▽ 諸先輩方には、企画から校止までご指導、お手伝いいただき、おかげさまでの発刊となった。寄稿していただいた方々に感謝申し上げます。
(破石晋照)

寺報「関山」は、中尊寺ホームページで閲覧が可能です。ぜひ利用下さい。(http://www.chusonji.or.jp/)

中尊寺(寺報)『関山』第十七号

平成二十三年(二〇二二)十一月十一日

発行 中尊寺

(執事長 菅野澄順)

〒〇二九四一九五

岩手県平泉町字衣関二〇二

編集 中尊寺仏教文化研究所

印刷 川嶋印刷(株)



〈発行 中尊寺〉